

第千四十五條 財産ノ分離ハ不動産ニ付テハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第千四十六條 第三百四條ノ規定ハ財産分離ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十七條 相續人ハ第千四十一條第一項及ヒ第二項ノ期間満了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

財産分離ノ請求アリタルトキハ相續人ハ第千四十一條第二項ノ期間満了ノ後相續財産ヲ以テ財産分離ノ請求又ハ配當加入ノ申出ヲ爲シタル債權者及ヒ受遺者ニ各其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第千三十二條乃至第千三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十八條 財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ限り相續人固有財産ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得此場合ニ於テハ相續人ノ債權者ハ其者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第千四十九條 相續人ハ其固有財産ヲ以テ相續債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ之ニ相當ノ擔保ヲ供シテ財産分離ノ請求ヲ防止シ又ハ其效力ヲ消滅セシムルコトヲ得但相續人ノ債權者カ之ニ因リテ損害ヲ受クヘキコトヲ證明シテ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第千五十條 相續人カ限定承認ヲ爲スコトヲ得ル間又ハ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セザル間ハ其債權者ハ財産分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百四條、第千二十七條、第千二十九條乃至第千三十六條、第千四十三條乃至第千四十五條及ヒ第千四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千二十九條ニ定メタル公告及ヒ催告ハ財産分離ノ請求ヲ爲シタル債權者之ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 相續ノ曠缺

第千五十一條 相續人アルコト分明ナラサルトキハ相續財産ハ之ヲ法人トス

第千五十二條 前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續財産ノ管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

裁判所ハ遲滞ナク管理人ノ選任ヲ公告スルコトヲ要ス

第千五十三條 第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ相續財産ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第千五十四條 管理人ハ相續債權者又ハ受遺者ノ請求アルトキハ之ニ相續財産ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第千五十五條 相續人アルコト分明ナルニ至リタルトキハ法人ハ存立サセリシモノト看做ス但管理人カ其權限内ニ於テ爲シタル行為ノ效力ヲ妨ケス

第千五十六條 管理人ノ代理權ハ相續人カ相續ノ承認ヲ爲シタル時ニ於テ消滅ス

前項ノ場合ニ於テハ管理人ハ遲滞ナク相續人ニ對シテ管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

第千五十七條 第千五十二條第二項ニ定メタル公告アリタル後二个月内ニ相續人アルコト分明ナルニ至サルトキハ管理人ハ遲滞ナク一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ

◎民法 第五編相續 第五章相續人ノ曠缺

得ス

第七十九條第二項、第三項及ヒ第三十條乃至第三十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第三十四條但書ノ規定ハ此限ニ在ラス

第一千五十八條 前條第一項ノ期間滿了ノ後仍ホ相續人アルコト分明ナテサルトキハ裁判所ハ管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續人アラハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一年ヲ下ルコトヲ得ス

第一千五十九條 前條ノ期間内ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相續財産ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テハ第五十六條第二項ノ規定ヲ準用ス
相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス

第六章 遺言

第一節 總則

第一千六十條 遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一千六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第一千六十二條 第四條、第九條、第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セス

第一千六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第一千六十四條 遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第一千六十五條 第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス

第一千六十六條 被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ト爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無効トス

前項ノ規定ハ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節 遺言ノ方式

第一款 普通法式

第一千六十七條 遺言ハ自筆證書、公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

第一千六十八條 自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

自筆證書中ノ挿入、削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレハ其效ナシ

第一千六十九條 公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一 證人二人以上ノ立會アルコト

二 遺言者カ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト

三 公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト

四 遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名、捺印スルコト

但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得

◎民法 第五編相續 第六章遺言 總則、遺言方式 百八十七

五 公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作リタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名、捺印スルコト

第一千七十條 秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

- 一 遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト
- 二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用キタル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト
- 三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名、住所ヲ申述スルコト
- 四 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコト

第一千六十八條第二項ノ規定ハ秘密證書ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第一千七十一條 秘密證書ニ依ル遺言ハ前條ニ定メタル方式ニ依クモアルモ第一千六十八條ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依ル遺言トシテ其效力ヲ有ス

第一千七十二條 言語ヲ發スルコト能ハサル者カ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ遺言者ハ公證人及ヒ證人ノ前ニ於テ其證書ハ自己ノ遺言書ナル旨並ニ其筆者ノ氏名、住所ヲ封紙ニ自書シテ第一千七十條第一項第三號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス

公證人ハ遺言者カ前項ニ定メタル方式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

第一千七十二條 禁治産者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス

ハコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在ラザリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス但秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名、捺印ヲ爲スコトヲ要ス

第一千七十四條 左ニ掲ケタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 遺言者ノ配偶者
- 五 推定相続人、受遺者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
- 六 公證人ト家ヲ同シクスル者及ヒ公證人ノ直系血族並ニ筆生、雇人

第一千七十五條 遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二款 特別方式

第一千七十六條 疾病其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ證人三人以上ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ口授シテ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ各證人其筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言ノ日ヨリ二十日內ニ證人ノ一人又ハ利害關係人

◎民法 第五編相續 第六章遺言 遺言ノ方式

ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其効ナシ

裁判所ハ遺言カ遺言者ノ真意ニ出テタル心證ヲ得ルニ非サレハ之ヲ確認スルコトヲ得ス
第千七十七條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在ル者ハ警察官二人
及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第千七十八條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以
テ遺言書ヲ作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士
一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷痍ノ爲メ病院ニ在ルトキハ其院ノ醫師ヲ以テ前項ニ
掲ケタル將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得

第千七十九條 從軍中疾病、傷痍其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ヒ軍屬
ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名、捺印シ且證人ノ一
人又ハ利害關係人ヨリ遲滯ナク理事又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其効ナ
シ

第千七十六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千八十條 艦船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ
證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺
言書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以
テ之ニ代フルコトヲ得

第千八十一條 第千七十九條ノ規定ハ艦船遭難ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル
船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要
ス

第千八十二條 第千七十七條、第千七十八條及ヒ第千八十條ノ場合ニ於テハ遺言者、筆者、
立會人及ヒ證人ハ各自遺言書ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第千八十三條 第千七十七條乃至第千八十一條ノ場合ニ於テ署名又ハ捺印スルコト能ハサ
ルトキハ立會人又ハ證人ハ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第千八十四條 第千六十八條第二項及ヒ第千七十三條乃至第千七十五條ノ規定ハ前八條ノ
規定ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第千八十五條 前九條ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言者カ普通方式ニ依リテ遺言ヲ爲
スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ六個月間生存スルトキハ其効ナシ

第千八十六條 日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ祕密證書ニ依リテ遺
言ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事之ヲ行フ

第三節 遺言ノ效力

第千八十七條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其効力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言

◎民法 第五編相續 第六章遺言 遺言ノ效力

ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

第一千八百八條 受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得

遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第一千八百九條 遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ遺贈ノ承認又

ハ拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ對シテ其意思ヲ表示セサルトキハ遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス

第一千九十條 受遺者カ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ其相續人ハ自己ノ相續權ノ範圍内ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十一條 遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第一千九十二條 包括受遺者ハ遺產相續人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第一千九十三條 受遺者ハ遺贈カ辨濟期ニ至ラサル間ハ遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ノ成否未定ノ間亦同シ

第一千九十四條 受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十五條 遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出ダシタルトキハ

第二百九十九條ノ規定ヲ準用ス

果實ヲ收取スル爲メニ出ダシタル通常ノ必要費ハ果實ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ得

第一千九十六條 遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス

停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同シ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十七條 遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ至リタルトキハ受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十八條 遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財産ニ屬セサルトキハ其效力ヲ生セス但權利カ相續財産ニ屬セサルコトアルニ拘ハラヌ之ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト認ムヘキトキハ此限ニ在ラス

第一千九十九條 相續財産ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ規定ニ依リテ有效ナルトキハ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ受遺者ニ移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ得取スルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千百條 不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ受遺者カ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコ

◎民法 第五編相續 第六章遺言 遺言ノ效力

トヲ要ス

第一千一百一條 遺言者カ遺贈ノ目的物ノ滅失若クハ變造又ハ其占有ノ喪失ニ因リ第三者ニ對シテ償金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混和シタル場合ニ於テ遺言者カ第二百四十三條乃至第二百四十五條ノ規定ニ依リ合成物又ハ混和物ノ單獨所有者又ハ共有者ト爲リタルトキハ其部ノ所有又ハ共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千一百二條 遺贈ノ目的タル物又ハ權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シ其權利ヲ消滅セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ズ但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第一千一百三條 債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ辨濟ヲ受ケ且其受取リタル物カ尙ホ相續財産中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財産中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千一百四條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ任ス受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千一百五條 負擔附遺贈ノ目的ノ價額カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應ジテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第四節 遺言ノ執行

第一千一百六條 遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル後遲滯ナク之ヲ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦同シ

前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セス封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第一千一百七條 前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ、其檢認ヲ經スシテ遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラレ

第一千一百八條 遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滯ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

第一千九條 遺言執行者カ就職ヲ承諾シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス

第一千十條 相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職ヲ承諾スルヤ否

ヤヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間内ニ相續人ニ對シテ確答ヲ爲ササルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス

第一千十一條 無能力者及ヒ破産者ハ遺言執行者タルコトヲ得ス

第一千十二條 遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ選任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ就職ヲ拒ムコトヲ得ス

第一千十三條 遺言執行者ハ遲滯ナク相續財産ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續人ニ交付スルコトヲ要ス

遺言執行者ハ相續人ノ請求アルトキハ其立會ヲ以テ財産目錄ヲ調製シ又ハ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコトヲ要ス

第一千十四條 遺言執行者ハ相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有ス

第六百四十四條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ遺言執行者ニ之ヲ準用ス
第一千十五條 遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ヲ處分シ其他遺言ノ執行ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第一千十六條 前三條ノ規定ハ遺言カ特定財産ニ關スル場合ニ於テハ其財産ニ付テノミ之ヲ適用ス

第一千十七條 遺言執行者ハ之ヲ相續人ノ代理人ト看做ス

第一千十八條 遺言執行者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ相續人ニ對シ第五百五條ニ定メタル責任ヲ負フ

第一千十九條 數人ノ遺言執行者アル場合ニ於テハ其任務ノ執行ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ保存行爲ヲ爲スコトヲ得

第一千二十條 遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メタルトキニ限り之ヲ受クルコトヲ得
裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ其報酬ヲ定ムルコトヲ得

遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第六百四十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

第一千二十一條 遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ利害關係人ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得
◎民法 第五編相續 第六章遺言 遺言ノ執行 百九十七

第一千二百二十二條 第六百五十四條及第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務ヲ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一千二百二十三條 遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但之ニ因リテ遺留分ヲ減スルコトヲ得ス

第五節 遺言ノ取消

第一千二百二十四條 遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得

第一千二百二十五條 前ノ遺言ト後ノ遺言ト抵觸スルトキハ其抵觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

第一千二百二十六條 遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

第一千二百二十七條 前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行爲カ取消サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セス但其行爲カ詐欺又ハ強迫ニ因ル場合ハ此限ニ在ラス

第一千二百二十八條 遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第一千二百二十九條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキハ相續人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判

所ニ請求スルコトヲ得

第七章 遺留分

第一千三十條 法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク此他家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第一千三十一條 遺產相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク遺產相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第一千三十二條 遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ其價格ヲ定ム

家督相續ノ特權ニ屬スル權利ハ遺留分ノ算定ニ關シテハ其價額ヲ算入セス

第一千三十三條 贈與ハ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限リ前條ノ規定ニ依リテ其價額ヲ算入ス一年前ニ爲シタルモノト雖モ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ

第一千三十四條 遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ掲ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

第一千三十五條 條件附權利又ハ存立期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スヘキトキハ遺留分權利者ハ第一千三

◎民法 第五編相續 第七章遺留分

十二條第二項ノ規定ニ依リテ定メタル價格ニ從ヒ直チニ其殘部ノ價額ヲ受贈者又ハ受遺者ニ給付スルコトヲ要ス

第一千三百三十六條 贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレハ之ヲ減殺スルコトヲ得ス

第一千三百三十七條 遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千三百三十八條 贈與ノ減殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ

第一千三百三十九條 受贈者ハ其返還スヘキ財産ノ外尙ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ返還スルコトヲ要ス

第一千四百十條 減殺ヲ受クヘキ受贈者ノ無資力ニ因リテ生シタル損失ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四百十一條 負擔附贈與ハ其目的ノ價額中ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シタルモノニ付キ其減殺ヲ請求スルコトヲ得

第一千四百十二條 不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル有償行爲ハ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ爲シタルモノニ限り之ヲ贈與ト看做ス此場合ニ於テ遺留分權利者カ其減殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償還スルコトヲ要ス

第一千四百十三條 減殺ヲ受クヘキ受贈者カ贈與ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ遺留分權利者ニ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但讓受人カ讓渡ノ當時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リタルトキハ遺留分權利者ハ之ニ對シテモ減殺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ受贈者カ贈與ノ目的ノ上ニ權利ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一千四百十四條 受贈者及ヒ受遺者ハ減殺ヲ受クヘキ限度ニ於テ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ遺留分權利者ニ辨償シテ返還ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項但書ノ場合ニ之ノ準用ス

第一千四百十五條 減殺ノ請求權ハ遺留分權利者カ相續ノ開始及ヒ減殺スヘキ贈與又ハ遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第一千四百十六條 第九百九十五條、第一千四條、第一千五條、第一千七條及ヒ第一千八條ノ規定ハ遺留分ニ之ヲ準用ス

民法終

民法施行法

第一章 通則

第一條 民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

第二條 民法ニ於テ破産ト稱スルハ民事ニ付テハ家資分散ヲ謂フ

第三條 身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其債務ヲ完済スルマテハ之ヲ破産者ト看做ス

第四條 證書ハ確定日附アルニ非サレハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナル證據力ヲ有セス

第五條 證書ハ左ノ場合ニ限り確定日附アルモノトス

- 一 公正證書ナルトキハ其日附ヲ以テ確定日トス
- 二 登記所又ハ公證人役場ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ押捺シタルトキハ其印章ノ日附ヲ以テ確定日附トス
- 三 私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトス
- 四 確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタルトキハ其證書ノ日附ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トス
- 五 官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ニ日附ヲ記載シタルトキハ其日

◎民法施行法 第一章通則

附ヲ以テ其證書ノ確定日附トス

第六條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者アルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ確定日附簿ニ署名者ノ氏名又ハ其一人ノ氏名ニ外何名ト附記シタルモノ及ヒ件名ヲ記載シ其證書ニ登簿番號ヲ記入シ帳簿及ヒ證書ニ日附アル印章ヲ押捺シ且其印章ヲ以テ帳簿ト證書トニ割印ヲ爲スコトヲ要ス
證書カ數紙ヨリ成レル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル印章ヲ以テ毎紙ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 確定日附簿ニハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ請求順ヲ以テ前條ノ規定ニ從ヒ記入ヲ爲スコトヲ要ス

確定日附簿ニハ地方裁判所長其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且職印ヲ以テ毎紙ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ納ムルコトヲ要ス

第九條 左ノ法令ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

- 一 明治五年第二百九十五號布告
- 二 明治六年第二十一號布告
- 三 同年第二十八號布告
- 四 同年第四十號布告

- 五 同年第百六十二號布告
 - 六 同年第百七十七號布告
 - 七 同年第二百十五號布告代人規則
 - 八 同年第二百五十二號布告
 - 九 同年第三百六號布告動産不動産書入金穀貸借規則
 - 十 同年第三百六十二號布告出訴期限規則
 - 十一 明治七年第二十七號布告
 - 十二 明治八年第六號布告
 - 十三 同年第六十三號布告
 - 十四 同年第百二號布告金穀貸借人證人辨償規則
 - 十五 同年第百四十八號布告建物書入質規則及ヒ建物賣買讓渡規則
 - 十六 明治九年第七十五號布告
 - 十七 同年第九十九號布告
 - 十八 明治十年第五十號布告
 - 十九 明治十四年第七十三號布告
 - 二十 明治十七年第二十號布告
 - 二十一 明治二十三年法律第九十四號財產委棄法
 - 二十二 同年勅令第二百十七號辨濟提供規則
- ◎民法施行法 第一章通則

明治六年第十八號布告地所賃入書入規則ハ第十一條ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

四

第十條 民法中不動産上ノ權利ニ關スル規定ハ當分ノ内之ヲ沖繩縣ニ施行セス

第十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一章 總則編ニ關スル規定

第十二條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者ハ其施行ノ日ヨリ禁治産者又ハ準禁治産者ト看做ス

後見人ハ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者カ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求ヲ爲サザリシトキハ其期間經過ノ後ハ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

前項ノ期間内ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求アリタルモ裁判所ニ於テ之ヲ却下シタルトキハ抗告期間經過ノ後若シ抗告アリタルトキハ最後ノ抗告棄却ノ時ヨリ又訴ニ於テ禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ヲ取消シタルトキハ其判決確定ノ日ヨリ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

第十四條 刑法第十條第三號、第三十五條、第三十六條、刑法附則第四十一條、陸軍刑法第八條第四號及ヒ海軍刑法第九條第四號、第二十二條ハ之ヲ削除ス

刑法第五十五條中「行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但」ノ二十三字及ヒ陸軍刑法第三十二條中「第三十五條第三十六條」ノ十字ハ之ヲ削除ス

第十五條 民法施行ノ日ニ於テ刑事禁治産者タル者ハ其施行ノ日ヨリ能力ヲ回復ス

第十六條 民法施行前ヨリ刑事禁治産者ノ財産ヲ管理スル者ハ刑事禁治産者又ハ刑事禁治産者カ定メタル他ノ管理者カ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルマテ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ管理者ハ民法第三百三條ニ定メタル權限ヲ有ス但刑事禁治産者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第十七條 民法第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ民法施行前ニ住所又ハ居所ヲ去リタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

民法施行前ヨリ不在者ノ財産ヲ管理スル者ハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其管理ヲ繼續ス

第十八條 民法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ民法施行前ヨリ生死分明ナラサル者ニモ亦之ヲ適用ス

民法施行前既ニ民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ直チニ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ失踪者ハ民法ノ施行ト同時ニ死亡シタルモノト看做ス

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第二十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

前項ノ法人トノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社員又ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作り民法施行ノ日ヨリ三个月内ニ之ヲ主務官廳

◎民法施行法 第二章總則編ニ關スル規定

ニ差出タル其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得タルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及ヒ第五號乃至第八號ニ掲ケタル事項
- 二 主務官廳ノ認可ノ年月日

前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ハ民法第四十六條第一項ニ定メタル登記ト同一ノモノト看做ス

第二十一條 第十九條第一項ノ法人カ財産目録又ハ社員名簿ヲ備ヘタルトキハ民法施行ノ後遲滯ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條 法人ノ代表者カ前三條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財産目録若シハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十三條 第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十五條 主務官廳カ正當ノ理由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 法人ノ清算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 剝奪公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事、監事又ハ清算人タルコトヲ得ス

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セ

第二十九條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ時効ニ因リテ消滅シタルモノト看做ス

第三十條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付テハ民法中時効ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十一條 民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二條 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三條 前三條ノ場合ニ於テ民法中時効ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第三十四條 第二十條乃至第三十二條ノ規定ハ時効期間ノ性質ヲ有セサル法定期間ニ之ヲ

◎民法施行法 第二章總則編ニ關スル規定

準用ス

第三章 物權編ニ關スル規定

第三十五條 慣習上物權ト認メタル權利ニシテ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ後ハ民法其他ノ法律ニ定ムルモノニ非サレハ物權タル效力ヲ有セス

第三十六條 民法ニ定メタル物權ハ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ有ス

第三十七條 民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年內ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條 民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 民法施行前ヨリ動産ヲ占有スル者カ民法第九十二條ノ條件ヲ具備スルトキハ民法ノ施行ト同時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第四十條 遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ依リ榜示ヲ爲シタル後一年內ニ其所有者ノ知レサルトキハ民法施行前ニ其榜示ヲ爲シタルトキト雖モ拾得者其所有權ヲ取得ス但漂著物ニ付テハ明治八年第六十六號布告內國船難破及漂流物取扱規則ノ規定ニ從フ

第四十一條 埋藏物ニ付テハ特別法ノ施行ニ至ルマテ遺失物ト同一ノ手續ニ依リテ公告ヲ

爲スコトヲ要ス

第四十二條 民法施行前ヨリ民法第二百四十二條乃至第二百四十六條ノ規定ニ依レハ所有權ヲ取得スヘカリシ狀況ニ在ル者ハ民法ノ施行ト同時ニ民法ノ規定ニ從ヒテ所有權ヲ取得ス但第三者カ正當ニ取得シタル權利ヲ妨ケス

第四十三條 共有者カ民法施行前ニ於テ五年ヲ超ユル期間內其有物ノ分割ヲ爲ササル契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍內ニ於テ其效力ヲ有ス

第四十四條 民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者カ民法第二百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍內ニ於テ其存續期間ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽廢又ハ其竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存續ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上權ハ原建物ノ朽廢スヘカリシ時ニ於テ消滅ス

第四十五條 外國人又ハ外國法人ノ爲メニ設定シタル地上權ニハ條約又ハ命令ニ別段ノ定ナキ場合ニ限り民法ノ規定ヲ適用ス

第四十六條 民法第二百七十五條及ヒ第二百七十六條ノ期間ハ民法施行前ヨリ同條ニ定メタル事實カ始マリタルトキト雖モ其始ヨリ之ヲ起算ス

第四十七條 民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存續期間カ五十年ヨリ長キトキト雖モ

◎民法施行法 第三章物權編ニ關スル規定

其効力ヲ存ス但其期間カ民法施行ノ日ヨリ起算シテ五十年ヲ超ユルトキハ其日ヨリ起算シテ之ヲ五十年ニ短縮ス

民法施行前ニ期間ヲ定メスシテ設定シタル永小作權ノ存續期間ハ慣習ニ依リ五十年ヨリ短キ場合ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ五十年トス

第四十八條 民法ノ規定ニ從ヘハ民法施行前ヨリ先取特權ヲ有スヘカリシ債權者ハ其施行ノ日ヨリ先取特權ヲ有ス

第四十九條 民法第三百七十條ノ規定ハ民法施行前ニ抵當權ノ目的タル不動産ニ附加シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第五十條 民法第三百七十四條ノ規定ハ民法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス但民法施行ノ日ヨリ一年內ニ特別ノ登記ヲ爲シタル利息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一ノ順位ヲ以テ抵當權ヲ行フコトヲ得

第五十一條 民事訴訟法第六百四十九條第二項及ヒ第三項ヲ改メテ左ノ三項トス
不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

第四章 債權編ニ關スル規定

第五十二條 明治十年第六十六號布告利息制限法第三條ハ之ヲ削除ス

第五十三條 民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者ガ其施行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セサルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條 民事訴訟法第七百三十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

民法第四百十四條第一項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

第五十五條 民事訴訟法第七百三十四條ヲ左ノ如ク改ム

債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間內ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應ジ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

第五十六條 金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ額ハ其施行ノ日以後ハ民法第四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム

但民法第四百十九條第一項但書ノ適用ヲ妨ケス

第五十七條 指圖證券、無記名證券及ヒ民法第四百七十一條ニ掲ケタル證券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第五十八條 民法施行前ニ發生シタル債務ト雖モ相殺ニ因リテ之ヲ免ルルコトヲ得

◎民法施行法 第四章債權編ニ關スル規定

雙方ノ債務カ民法施行前ヨリ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタルトキハ相殺ノ意思表示ハ民法施行ノ日ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五十九條 民法第六百五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル不動産ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第六十條 第四十五條ノ規定ハ外國人又ハ外國法人ニ土地ヲ賃貸シタル場合ニ之ヲ準用ス
第六十一條 刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ之ヲ削除ス

第五章 親族編ニ關スル規定

第六十二條 民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ規定ニ依レハ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ之ヲ家族トス

家族ハ民法施行ノ日ヨリ民法規定ニ從ヒテ戸主權ニ服ス

第六十三條 民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家ニ入ルヘキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ在ル者ニハ其規定ヲ適用セス

第六十四條 民法施行前ニ隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リ隱居ヲ爲シ又ハ相○ヲ承認シタルトキハ民法第七百五十九條ノ規定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得但第三十二條及ヒ第三十四條ノ適用ヲ妨ケス

民法第七百六十條ノ規定ハ民法施行前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第六十五條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組カ其當時ノ法律ニ依レハ無効ナルト

キト雖モ民法ノ規定ニ依リ有效ナルヘキトキハ民法施行ノ日ヨリ有效トス

第六十六條 民法第七百六十七條第一項ノ期間ハ前婚カ民法施行前ニ解消シ又ハ取消サレタルトキト雖モ其解消又ハ取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六十七條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子縁組ハ之ヲ取消スコトヲ得但其實事カ既ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

第六十八條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生ス

第六十九條 民法施行前ニ婚姻ヲ爲シタル者カ夫婦ノ財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲サザリシトキハ其財産關係ハ民法施行ノ日ヨリ法定財産制ニ依ル

民法施行前ニ夫婦カ其財産ニ付キ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻届出ノ後ニ爲レタルモノト雖モ其效力ヲ存ス但其契約カ法定財産制ニ異ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ六個月内ニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ離婚又ハ離縁ノ原因タルヘキトキハ夫婦又ハ養子縁組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第七十一條 嫡出ノ推定及ヒ否認ニ關スル民法ノ規定ハ民法施行前ニ懐胎シタル子ニモ亦之ヲ適用ス

◎民法施行法 第五章親族編ニ關スル規定

第七十二條 子ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ノ親權ニ服ス
第七十三條 裁判所ハ民法施行前ニ生シタル事實ニ據リテ親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第七十四條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者ノ後見人タル者アルトキハ其後見人ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其任務ヲ行フ

第七十五條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者カ後見人ヲ有セザルトキハ民法ニ定メタル者其後見人ト爲ル

第七十六條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者アル場合ニ於テ後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告アリタルトキハ後見人ハ其宣告ノ時ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ後見人ノ任務ヲ行ヒ準禁治産ノ宣告アリタルトキハ保佐人ノ任務ヲ行フ

第七十七條 民法施行前ニ未成年又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ニ非サル事由ノ爲メニ選任シタル後見人ノ任務ハ民法施行ノ日ヨリ終了ス
未成年ノ後見人又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ選任シタル後見人カ民法第九百八條ニ該當スルトキ亦同シ

第七十八條 民法第九百三十七條及ヒ第九百四十條乃至第九百四十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス
民法第九百三十八條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ遲滯ナク親族會ヲ召集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得

第八十條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ遲滯ナク被後見人ノ財産ヲ調査シ其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項、第三項、第九百十八條及ヒ第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條 民法第九百二十四條及ヒ第九百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財ヲ賃借セルトキハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ召集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親族會カ同意ヲ爲サザリシトキハ賃借借ハ其效力ヲ失フ

第六章 相續編ニ關スル規定
第八十四條 民法施行前ニ民法第九百六十九條及ヒ第九百九十七條ニ掲ケタル行爲ヲ爲シタル者ト雖モ相續人タルコトヲ得ス

第八十五條 民法第九百七十四條及ヒ第九百九十五條ノ規定ハ相續人タルヘキ者カ民法施行
◎民法施行法 第六章相續編ニ關スル規定

行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十六條 相續人廢除ノ原因タル事實カ民法施行前ニ生シタルトキト雖モ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 相續人廢除ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ廢除シタル相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十八條 家督相續人指定ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ指定シタル家督相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十九條 民法第九百八十九條ノ規定ハ民法施行前ニ前戸主ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第九十條 民法千七條及ヒ第千八條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

第九十一條 相續ノ承認、拋棄及ヒ財産ノ分離ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ始開シタル相續ニハ之ヲ適用セス

第九十二條 相續人曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シル相續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第九十三條 相續財産ノ管理人カ民法第千五十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ同法第千五十八條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ト同一ノ方法ヲ以テ爲スコトヲ要ス

第九十四條 遺言ノ成立及ヒ取消ニ付テハ其當時ノ法律ヲ適用シ其力ニ付テハ遺言者ノ死亡ノ法律ヲ適用ス

第九十五條 民法第千百三十二條乃至第千百三十六條及ヒ第千百二十八條乃至第千四百四十五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

民法施行法 畢

◎民法施行法 第六章相續編ニ關スル規定

法 例 (法律第十號)

第一條 法律ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス但法律ヲ以テ之ニ異ナリタル施行時期ヲ定キタルトキハ此限ニ在ラス

臺灣、北海道、沖繩縣其他島地ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ施行時期ヲ定ムルコトヲ得

第二條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル慣習ハ法令ノ規定ニ依リテ認メタルモノ及ヒ法令ニ規定ナキ事項ニ關スルモノニ限リ法律ト同一ノ效力ヲ有ス

第三條 人ノ能力ハ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム

外國人カ日本ニ於テ法律行為ヲ爲シタル場合ニ於テ其外國人カ本國法ニ依レハ無能力者タルヘキトキト雖モ日本ノ法律ニ依レハ能力者タルヘキトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ能力者ト看做ス

前項ノ規定ハ親族法又ハ相續法ノ規定ニ依ルヘキ法律行為及ヒ外國ニ在ル不動産ニ關スル法律行為ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條 禁治産ノ原因ハ禁治産者ノ本國法ニ依リ其宣告ノ效力ハ宣告ヲ爲シタル國ノ法律ニ依ル

日本ニ住所又ハ所居ヲ有スル外國人ニ付キ其本國法ニ依リ禁治産ノ原因アルトキハ裁判所ハ其者ニ對シテ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得但日本ノ法律カ其原因ニ認メサルトキハ此限ニ在ラス

◎ 法 例

第五條 前條ノ規定ハ準禁治産ニ之ヲ準用ス

第六條 外國人ノ生死カ分明ナラサル場合ニ於テハ裁判所ハ日本ニ在ル財産及ヒ日本ノ法律ニ依ルヘキ法律關係ニ付テノミ日本ノ法律ニ依リテ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第七條 法律行為ノ成立及ヒ效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒ其何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ム

當事者ノ意思カ分明ナラサルトキハ行為地法ニ依ル

第八條 法律行為ノ方式ハ其行為ノ效力ヲ定ムル法律ニ依ル

行為地法ニ依リタル方式ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ有效トス但物權其他登記スヘキ權利ヲ設定シ又ハ處分スル法律行為ニ付テハ此限ニ在ラス

第九條 法律ヲ異ニスル地ニ在ル者ニ對シテ爲シタル意思表示ニ付テハ其通知ヲ發シタル地ヲ行為地ト看做ス

契約ノ成立及ヒ效力ニ付テハ申込ノ通知ヲ發シタル地ヲ行為地ト看做ス若シ其申込ヲ受ケタル者カ承諾ヲ爲シタル當時申込ノ發信地ヲ知ラサリシトキハ申込者ノ住所地ヲ行為地ト看做ス

第十條 動産及ヒ不動産ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル

前項ニ掲ケタル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ノ完成シタル當時ニ於ケル目的物ノ所在地法ニ依ル

第十一條 事務管理、不當利得又ハ不法行為ニ因リテ生スル債權ノ成立及ヒ效力ハ其原因タル事實ノ發生シタル地ノ法律ニ依ル

タル事實ノ發生シタル地ノ法律ニ依ル

前項ノ規定ハ不法行為ニ付テハ外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依レハ不法ナラサルトキハ之ヲ適用セス

外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依リテ不法ナルトキト雖モ被害者ハ日本ノ法律カ認メタル損害賠償其他ノ處分ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ債務者ノ住所地法ニ依ル

第十三條 婚姻成立ノ要件ハ各當事者ニ付キ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム但其方式ハ婚姻舉行地ノ法律ニ依ル

前項ノ規定ハ民法第七百七十七條ノ適用ヲ妨ケス

第十四條 婚姻ノ效力ハ夫ノ本國法ニ依ル

外國人カ女戸主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ日本人ノ婿養子ト爲リタル場合ニ於テハ婚姻ノ效力ハ日本ノ法律ニ依ル

第十五條 夫婦財産制ハ婚姻ノ當時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル

外國人カ女戸主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ日本人ノ婿養子ト爲リタル場合ニ於テハ夫婦財産制ハ日本ノ法律ニ依ル

第十六條 離婚ハ其原因タル事實ノ發生シタル時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル但裁判所ハ其原因タル事實カ日本ノ法律ニ依ルモ離婚ノ原因タルトキニ非サレハ離婚ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

トヲ得ス

◎法例

第十七條 子ノ嫡出ナルヤ否ハ其出生ノ當時母ノ夫ノ屬シタル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム若シ其夫カ子ノ出生前ニ死亡シタルトキハ其最後ニ屬シタル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

第十八條 私生子認知ノ要件ハ其父又ハ母ニ關シテハ認知ノ當時父又ハ母ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定メ其子ニ關シテハ認知ノ當時子ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム
認知ノ效力ハ父又ハ母ノ本國法ニ依ル

第十九條 養子縁組ノ要件ハ各當事者ニ付キ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム

養子縁組ノ效力及ヒ離縁ハ養親ノ本國法ニ依ル

第二十條 親子間ノ法律關係ハ父ノ本國法ニ依ル若シ父アラサルトキハ母ノ本國法ニ依ル

第二十一條 扶養ノ義務ハ扶養義務者ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ム

第二十二條 前九條ニ掲ケタルモノノ外親族關係及ヒ之ニ因リテ生スル權利義務ハ當事者ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ム

第二十三條 後見人ハ被後見人ノ本國法ニ依ル

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ノ後見ハ其本國法ニ依レハ後見開始ノ原因アルモ後見ノ事務ヲ行フ者ナキトキ及ヒ日本ニ於テ禁治産ノ宣告アリタルトキニ限り日本ノ法律ニ依ル

第二十三條 前條ノ規定ハ保佐ニ之ヲ準用ス

第二十四條 相續ハ被相續人ノ本國法ニ依ル

第二十六條 遺言ノ成立及ヒ效力ハ其成立ノ當時ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル

遺言ノ取消ハ其當時ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル

前二項ノ規定ハ遺言ノ方式ニ付キ行爲地法ニ依ルコトヲ妨ケス

第二十七條 當事者ノ本國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其當事者カ二個以上ノ國籍ヲ有スルトキハ最後ニ取得シタル國籍ニ依リテ其本國法ヲ定ム但其一カ日本ノ國籍ナルトキハ日本ノ法律ニ依ル

國籍ヲ有セサル者ニ付テハ其住所地法ヲ以テ本國法ト看做ス其位所カ知レサルトキハ其居所地法ニ依ル

地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ニ付テハ其者ノ屬スル地方ノ法律ニ依ル

第二十八條 當事者ノ住所地法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其住所カ知レザルトキハ其居地法ニ依ル

前條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ當事者ノ住所地法ニ依ルヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 當事者ノ本國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其國ノ法律ニ從ヒ日本ノ法律ニ依ルヘキトキハ日本ノ法律ニ依ル

第三十條 外國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其規定カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルトキハ之ヲ適用セス

法 例 畢

◎法例

朕帝國議會之協賛ヲ經タル戶籍法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十一年六月十五日

内閣總理大臣侯爵 伊藤博文

内務大臣子爵 芳川顯正

司法大臣 曾根荒助

法律第十四號

戶籍法

第一章 戶籍吏及ヒ戶籍役場

第二章 身分登記簿

第三章 登記手續

第四章 身分ニ關スル届出

第一節 通則

第二節 出生

第三節 嫡出子否認

第四節 私生子認知

第五節 養子縁組

第六節 養子縁縁

第七節 婚姻

第八節 離婚

第九節 後見

第十節 隠居

第十一節 失踪

- 第十二節 死亡
- 第十三節 家督相續
- 第十四節 推定家督相續人ノ廢除
- 第十五節 家督相續人ノ指定
- 第十六節 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶
- 第十七節 廢家及ヒ絶家
- 第十八節 分家及ヒ廢絶家再興
- 第十九節 國籍ノ得喪
- 第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更
- 第二十一節 身分登記ノ變更
- 第五章 戶籍簿
- 第六章 戶籍ノ記載手續
- 第七章 戶籍ニ關スル届出
- 第八章 抗告
- 第九章 罰則

附 則

戶 籍 法

第一章 戶籍吏及ヒ戶籍役場

- 第一條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍吏之ヲ管掌シ戶籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ
- 第二條 市町村長ヲ以テ戶籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 第三條 戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者戶籍吏ノ職務ヲ行フ
- 戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人、町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者戶籍吏ノ職務ヲ行フ
- 第四條 戶籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス
- 戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ、司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第六條 戶籍吏カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ戶籍吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ス

◎戶籍法 第一章戶籍吏及ヒ戶籍役場

第二章 身分登記簿

第七條 身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種トシ各正副二本ヲ備フ

各種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

第八條 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス

第九條 戸籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作り監督官ノ契印ヲ請フコトヲ要ス

監督官カ帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ戸籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

第十條 身分登記簿ノ用紙カ不足ナルトキハ戸籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作りテ契印ヲ請フコトヲ要ス

第十一條 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戸籍役場ニ保存スルコトヲ要ス登記ヲ終結シタル身分登記簿ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス

第十二條 身分登記簿ハ事變ヲ避クル爲メニモル場合ヲ除ク外之ヲ戸籍役場外ニ持出スコトヲ得ス但登記ヲ終結シタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタルトキハ此

限ニ在ラズ

第十三條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閲覧又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス

戸籍吏カ閲覧又ハ交付ノ請求ヲ許ササル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

第十四條 身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且身分登記簿ノ再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス

第三章 登記手續

第十五條 身分登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 一 戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 二 戸籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ
- 三 戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 四 戸籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 五 戸籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ

◎戸籍法 第二章 身分登記簿 第三章 登記手續

六 戶籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ

第十六條 前條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出、送付其他ノ手續カ本法ノ規定ニ依ラサルモノニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十八條 戶籍吏カ届出、報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 登記ハ本籍人、非本籍人及ヒ登記ヲ爲スヘキ事件ノ區別ニ從ヒ相當ノ登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戶籍吏ノ管轄ニ歸シ又ハ其管轄ヲ離ルル場合ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十一條 被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 登記ニハ第四章ノ規定ニ依リ届出、報告、申請若クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ其謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十三條 登記ヲ爲スヘキ事實カ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ノミヲ記載シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十四條 登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條 登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且其申請ノ基本タル裁判ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス

第二十六條 本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ欄外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ規定ニ依ラス更ニ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ足ル

第二十七條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲ササリシトキハ戶籍吏ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條 登記ニハ第二十二條ニ規定シタルモノ、外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

◎戶籍法 第三章 登記手續

- 一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戸籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場
合ニ於テハ發送者ノ官職、氏名及ヒ發送ノ年月日ヲ併記スルコトヲ要ス
- 二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請求者ノ官職、氏名
- 三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ作製者
及ヒ謄本發送者ノ官職、氏名
- 四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名

第二十九條 登記ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用#ス字畫明瞭ナルコトヲ要ス
年月日時及年齢ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用#スシテ壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコト
ヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外
ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戸籍吏之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ
讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二十條 登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲
シ一事件毎ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシムルコトヲ要ス

第二十一條 戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第二十二條 欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツル
コトヲ得此場合ニ於テハ戸籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬ス

ル場合ニ於テハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付
スルコトヲ要ス

被登記者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戸籍吏ハ
登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ副本ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第二十四條 被登記者ノ本籍カ届出ヲ受ケタル戸籍吏ノ管轄以外ニ於テ一ノ戸籍吏ノ管轄
ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ其届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ登記ヲ爲シタ
ル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送
付スルコトヲ要ス

第二十五條 前二條ノ場合ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキハ戸籍
吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ管轄戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第二十六條 第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由ニ因リ被登記者ノ本籍カ
移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ戸籍吏ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り其謄本ヲ以テ届書ノ副本ニ
代フルコトヲ要ス届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戸
籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキ亦同シ

第二十七條 登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號及
ヒ年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編綴シ且之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス
第二十八條 前條ノ書類ハ一个月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督區裁判所ハ

◎戸籍法 第三章 登記手續

之ヲ保存スルコトヲ要ス

書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滯ナク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス

登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戶籍吏ハ遲滯ナク其登記ノ謄本ヲ作り職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四十條 登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ戶籍吏ハ滯遲ナク之ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人通知スルコトヲ要ス

第四十一條 戶籍吏ハ毎年未ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用非盡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四章 身分ニ關スル届出

第一節 通則

第四十二條 身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戶籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得届出人カ本

籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス

第四十三條 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戶籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 届出事件

二 届出ノ年月日

三 届出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地

第四十五條 届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戶主ノ氏名及ヒ届出人ト戶主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十六條 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス

前項ノ場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及ヒ本籍地

二 無能力ノ原因

三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

第四十七條 前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行

◎戶籍法 第四章 身分ニ關スル届出

爲ノ届出ニハ之ヲ適用セス

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四十八條 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第四十九條 届出人、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在地ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十條 本法ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但戸籍吏ハ各届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十一條 届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第五十二條 第二十九條ノ規定ハ届書ノ記載ニ之ヲ準用ス

第五十三條 本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス
届出ニ因リ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正副二本ヲ作り届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス

第五十四條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述

シ戸籍吏ハ直チニ其口述並ニ届出ノ年月日、届出人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ之ニ署名、捺印セシムル事ヲ要ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リテ戸籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十六條 第四十三條、第五十四條及ヒ前條ノ規定ハ届出事件ニ關スル同意、承諾又ハ承認ノ證明ニ之ヲ準用ス

第五十七條 本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届出人ハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第五十八條 届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出タスコトヲ得

第五十九條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ三個月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一個月内ニ本籍地ノ戸籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

第六十一條 前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事カ受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三個月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地

◎戸籍法 第四章 身分ニ關スル届出

ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス
裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受ケ
ル前裁判カ確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出ヲ怠リタル爲メ過料ニ處セラレタル
者アルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ
要ス但戸籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタル場合ハ此限ニ在ラス

戸籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届
出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス
届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戸籍吏ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催
告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戸籍吏ノ催告ニ應セサルトキ亦同シ

第六十四條 戸籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲ササル者アルコトヲ知リ
タルトキハ遲滞ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要ス

第六十五條 届出期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戸籍吏ハ其届出ヲ受理
スルコトヲ要ス
第六十六條 届出人ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得
第六十七條 届出ニ關スル規定ハ登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二節 出生

第六十八條 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ナルトキ
ハ其旨
- 三 出生ノ年月日時及ヒ場所
- 四 父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、族稱、職業及
ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス
- 五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地
- 六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因
- 七 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第六十九條 嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲
スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但
庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ
寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付
テハ到着地ヲ以テ出生地ト看做ス

◎戸籍法 第四章 身分ニ關スル届出

第七十一條 嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス
庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス
前二項ニ掲ケタル者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戸主

第二 同居者

第三 分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第七十二條 夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖モ前條第一項ノ規定ニ依リ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ勝本ヲ添ヘテ届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十四條 病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院、監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリル出生届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戸籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣服、物品、發見ノ場所、年月日時其他ノ景況並ニ其兒ノ出生ノ推定年月、氏名、男女ノ別、引受人ノ氏名、職業、本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號並ニ場所及ヒ引渡ノ年月日ヲ調書ニ記載シテ之ヲ届書ニ添ヘ置クコトヲ要ス

引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス
第二項ノ調書ハ登記ニ付テハ之ヲ届書ト看做ス

第七十六條 棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一个月内ニ第六十八條ノ届出ヲ爲シ且棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十七條 出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲ササル前出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人共ニ署名、捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス
前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ

◎戸籍法 第四章 身分ニ關スル届出

其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス
艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第三節 嫡出子否認

第七十九條 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日
- 三 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

第四節 私生子認知

第八十條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
 - 二 出生ノ年月日
 - 三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
 - 四 父カ認知場合ヲ爲スニ於テハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 前項第四號ノ場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戶主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戶主ト母

トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ認知者ハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十二條 民法第八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リ子、母又ハ直系卑屬ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第八十三條 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ效力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘ前三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

遺言ニ依ル認知ノ届書ニハ認知者ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十四條 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第五節 養子縁組

第八十五條 縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

◎戶籍法 第四章 身分ニ關スル届出

養子カ婚家又ハ養家ニリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十六條 民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル者ハ養子ニ代ハリテ縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條 民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第八百四十一條第二項及ヒ第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戸主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第八十八條 民法第八百四十二條ノ規定ニ依リ配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條 民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ縁組ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ第八十五條ニ掲ケタル諸件及ヒ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ養子ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第九十條 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條 縁組カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十二條 縁組ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ヲ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十三條 第八十五條及ヒ第八十七條乃至第八十九條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十四條 第五十八條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第九十五條 第六節 養子離縁

第九十六條 離縁ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、職業及本籍地

二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

四 縁組ノ年月日

五 離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト

六 養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及ヒ妻ノ名

七 養子カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

八 養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第九十六條 民法八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養親及ヒ養子ニ代ハリテ協議ヲ爲シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養子ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第九十八條 民法第八百六十二條第三項及ヒ第八百六十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

◎戸籍法 第四章 身分ニ關スル届出

十九

人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第九十九條 離縁ノ裁判ヲ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百條 第九十五條及ヒ第九十八條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七節 婚姻

第一百二條 婚姻ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地
 - 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
 - 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
 - 四 入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ其旨
 - 五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ラサルトキハ其旨
 - 六 婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ年月日
- 當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第一百三條 民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ

届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第一百四條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻及ヒ婿養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百五條 婚姻カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第一百六條 婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ從ヒ檢事ヨリ登記ノ取消ヲ請求スルコトヲ要ス

第一百七條 第一百二條及ヒ第一百三條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第一百八條 第五十八條ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節 離婚

第一百九條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 婚姻ノ年月日

戸籍法 第四章 身分ニ關スル届出

- 五 離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト
- 六 當事者カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 七 當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由
- 第八十條 民法第八百九條ノ規定ニ依リ父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者チシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス
- 第九十一條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス
- 第九十二條 第九十條及ヒ第九十條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
- 第九十三條 第五十八條ノ規定ハ離婚ノ届出ニハ之ヲ適用セス
- 第九節 後見
- 第九十四條 後見ノ開始アリタルトキハ後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
 - 一 後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ住所
 - 二 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
 - 三 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
 - 四 後見開始ノ原因及ヒ年月日
 - 五 後見人就職ノ年月日

- 第九十五條 後見人ノ更迭アリタルトキハ後任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ前任者ノ氏名ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
- 第九十六條 後見人カ遺言ヲ以テ指定セラレタル者ナルトキハ届書ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス
- 後見人カ親族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ届書ニ其選任ニ關スル證明書ヲ添フルコトヲ要ス
- 第九十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
 - 一 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
 - 二 就職ノ年月日
 - 三 任務ノ終了原因及ヒ年月日
- 後見人ノ任務カ其死亡ニ因リテ終了シタルトキハ前項ノ届出ハ後見監督人ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第九十八條 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十節 隠居

- 第九十九條 隠居ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス
 - 一 隠居者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- ◎戸籍法 第四章 身分ニ關スル届出

二 家督相續人ノ名、出生ノ年月日、職業及ヒ家督相續人ト隱居者トノ續柄
三 隱居ノ原因

第二百二十條 裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ裁判ノ謄本ヲ添
フルコトヲ要ス

第二百二十一條 隱居ノ届出人ハ届書ニ家督相續人ノ承認ノ證書ヲ添ヘ又ハ承認ヲ爲シタル
者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百五十五條第二項ノ規定ニ依リ夫ノ同意ヲ要スル場合ノ届出ニ之
ヲ準用ス

第二百二十二條 隱居ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日
ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第六百六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一節 失踪

第二百二十三條 失踪ノ宣告アリタルトキハ其宣告ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日
内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 失踪者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 失踪ノ宣告アリタル年月日

三 失踪者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱及ヒ戶主ト失踪者トノ續柄

第二百二十四條 失踪ノ宣告ノ取消アリタルキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ

一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二節 死亡

第二百二十五條 死亡者アリタルトキハ届出義務者カ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五日内ニ左ノ
諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書若クハ檢案書又ハ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツ
ルコトヲ要ス

一 死亡者ノ氏名、出生ノ年月日、男女ノ別及ヒ本籍地

二 死亡ノ年月日時及ヒ場所

三 死亡者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱及ヒ戶主ト死亡者トノ續柄

前項ノ届出期間ハ衛生ノ爲メ特別ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二百二十六條 左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

第一 戶主

第二 同居者

第三 家主、地主又ハ土地若クハ家屋ノ管理人

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第二百二十七條 死亡ノ届出ハ死亡地又ハ死亡者ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲ス
コトヲ要ス

第二百二十八條 第七十條及ヒ第七十四條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第二百二十九條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滞ナク第二百二十五條ニ掲ケタル諸

◎戶籍法 第四章 身分ニ關スル届出

件ヲ具シ監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者アリテ死體ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於
テハ報告書ニ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添フルコトヲ要ス

第三百三十條 航海中ニ死亡者アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選
ミタル證人ノ前ニ於テ第二百二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名
捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ
死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本
ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ外務大臣
ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第三百三十一條 艦船ノ難破ニ因リテ乗組員及ヒ乗客ノ全部又ハ一部カ死亡シタルトキハ其
難破ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコト
ヲ要ス

第三百三十二條 死亡者ノ本籍分明ナラス且其何人タルコトヲ認識スルコト能ハサルトキハ
警察官ハ檢視調書ヲ作り遲滞ナク之ヲ其地ノ戸籍吏ニ報告スルコトヲ要ス
死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ其何人タルコトヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキ
ハ警察官ハ遲滞ナク前ニ報告ヲ受ケタル戸籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第三百二十六條第一項第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル死亡届出義務者カ前項ノ事實ヲ知リタ
ルハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ニ
代ヘ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添フルコトヲ得

第十三節 家督相續

第三百二十三條 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一個月内ニ
左ノ諸件ヲ具シ之ヲ被相續人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

- 一 家督相續ノ原因及ヒ戸主ト爲リタル年月日
 - 二 前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄
- 家督相續人カ外國ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ届出ハ三個月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足
ル

第三百二十四條 家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ相續權ヲ回復シタル者ハ裁判確定
ノ日ヨリ一個月内ニ前條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且前ニ爲
シタル家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第三百二十五條 家督相續人カ胎兒ナルトキハ其母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日
ヨリ一ヶ月内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 相續開始ノ年月日
- 二 家督相續人ノ胎兒ナルコト
- 三 前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

◎戸籍法 第四章 身分ニ關スル届出

第三百三十條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第三百三十六條 胎兒ヲ家督相續人トシテ届出テタル場合ニ於テ其胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ出産ノ日ヨリ一个月内ニ醫師又ハ出産ニ立會ヒタル産婆ノ檢案書ヲ提出シテ家督相續ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス
母カ登記取消ノ申請ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四節 推定家督相續人ノ廢除

第三百三十七條 推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ被相續人ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 廢除セラレタル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業
- 二 廢除ノ原因
- 三 廢除ノ裁判カ確定シタル年月日

第三百三十八條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタル場合ニ於テ廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ前條ノ届出ハ遺言執行者ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十九條 推定家督相續人廢除ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五節 家督相續人ノ指定

第四百十條 家督相續人指定ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 指定家督相續人タルヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 法定ノ推定家督相續人ナキコト

第四百十一條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ家督相續人指定ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百十二條 家督相續人指定ノ取消ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 指定家督相續人ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 指定ノ年月日

第四百十三條 家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス者ハ同時ニ家督相續人指定ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第四百十四條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ル外届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ指定ノ取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百十五條 家督相續人ノ指定カ其效力ヲ失ヒタルトキハ指定ヲ爲シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ其效力ヲ失ヒタル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

◎戶籍法 第四章 身分ニ關スル届出

第十六節 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶

第四百四十六條 民法第七百三十五條第一項若クハ第七百三十七條ノ規定ニ依リ他家ノ家族

ト爲ラント欲スル者又ハ民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ婚家、養家又ハ

自家ノ家族ト爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ入籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 入籍スヘキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スヘキ者トノ親族關係
- 三 入籍スヘキ者カ廢家シテ他家ニ入ルトキハ其旨
- 四 入籍スヘキ者カ家族ナルトキハ其去ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第四百四十七條 民法第七百三十五條第二項、第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ

依リ戸主、配偶者、養親、親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ

届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第四百四十八條 戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコ

トヲ要ス

- 一 離籍セラルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業
- 二 離籍ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日
- 三 離籍セラルヘキ者ト共ニ家ヲ去ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及

ヒ其者ト離籍セラルヘキ者トノ續柄

第四百四十九條 離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ

諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 離籍ヲ爲シタル戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 離籍ヲ爲シタル戸主ト届出人トノ續柄
- 三 離籍ノ原因及ヒ年月日
- 四 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

第四百五十條 戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ

届出ツルコトヲ要ス

- 一 復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 三 復籍拒絶ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日

第四百五十一條 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサル者カ一

家ヲ創立シタルトキハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツ

ルコトヲ要ス

- 一 復籍ヲ拒ミタル戸主又ハ廢絶シタル家ノ最終ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日、職業及

戸籍法 第四章 身分ニ關スル届出

ヒ本籍地

- 二 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ノ原因及ヒ年月日
- 三 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

第十七節 廢家及ヒ絶家

第一百五十二條 廢家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サルコトノ證明書又ハ廢家ノ許可ニ關スル裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 廢家シタル者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 廢家シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第一百五十三條 絶家ノ家族ニシテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 絶家ノ原因及ヒ年月日
- 三 一家ヲ創立シタル者ニ隨ヒテ其家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第十八節 分家及ヒ廢絶家再興

第一百五十四條 分家ヲ爲ント欲サスル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 本家ノ戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト分家ノ戸主ト爲ルヘキ者トノ續柄
- 三 分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日及ヒ職業
- 四 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

第一百五十五條 廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 廢絶ノ原因及ヒ年月日
- 三 廢絶シタル家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄
- 四 再興ヲ爲ス者ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 五 再興ヲ爲ス者ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキ者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第一百八十六條 分家又ハ廢絶家再興ノ届出人ハ届書ニ戸主ノ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ戸主ノ同意ノ證書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百四十三條但書ノ規定ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ之ヲ準用ス

第十九節 國籍ノ得喪

第一百五十七條 外國人カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ婚姻又ハ縁組ノ届出人ハ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

又夫婦姻又ハ養子縁組ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル外届書ニ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

◎戶籍法 第四章 自分ニ關スル届出

第百五十八條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知者ハ認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

子ノ母カ外國人ナルトキハ認知者ハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十九條 歸化ヲ爲シタル者ハ歸化ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 歸化人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、住所及ヒ原國籍
- 二 父母ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ國籍
- 三 歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト歸化人トノ續柄
- 四 許可ノ年月日

歸化人ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シセルトキハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者ハ其國籍喪失前ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 國籍喪失ノ原因
- 二 國籍喪失ノ期日ヲ知り得ヘキトキハ其年月日
- 三 法定ノ推定家督相續人アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

四 新ニ取得スヘキ國籍

五 届出人ノ妻又ハ子カ共ニ國籍ヲ失フヘキトキハ其妻又ハ子ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百六十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失前ニ前條ノ届出ヲ爲スコト能ハサリシトキハ國籍喪失後十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ國籍喪失者カ日本ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ之ヲ適用セス

第百六十二條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ其者カ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ官職ヲ帶フル者ナルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ所屬長官ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百六十三條 日本ノ國籍ヲ回復シタル者ハ國籍回復ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日
- 二 國籍回復前ニ有セシ國籍
- 三 國籍回復ノ許可ヲ得タル年月日
- 四 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

◎戶籍法章 第四 身分ニ關スル届出

第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更

第六十四條 氏ヲ復舊シ又ハ名ヲ改稱シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ管轄官廳ノ許
可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 復舊又ハ改稱前ノ氏名
- 二 復舊シタル氏又ハ改稱シタル名
- 三 復舊又ハ改稱ノ原因及ヒ許可ノ年月日

第六十五條 新ニ華族ニ列セラレ又ハ華士族ノ稱ヲ失ヒタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具
シ辭令書又ハ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 新舊族稱
- 二 族稱變更ノ原因
- 三 族稱變更ノ辭令又ハ許可アリタル年月日

前項ノ届出ハ其族稱ニ變更アリタル者カ家族ナルトキハ戶主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 前條ノ規定ハ分家、廢絶家再興又ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル者ニハ之
ヲ適用セス但處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於テハ裁判所ハ其者ノ本籍地ノ戶籍吏
ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第二十一節 身分登記ノ變更

第六十七條 身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記ヲ爲シタル戶籍役場ノ所在
地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條 身分登記變更ノ申請ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ一个月内ニ左ノ諸件
ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ原登記ヲ爲シタル戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 原登記ノ件名及ヒ年月日
- 二 變更スヘキ事項

第六十九條 前條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ身分登記ノ謄本ヲ申請スル場合ニ之ヲ適用
ス

第五章 戶籍簿

第七十條 戶籍ハ戶籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ編製ス

日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス

第七十一條 戶籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

戶籍吏ノ管轄地内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ
順序ハ戶籍吏之ヲ定ム

第七十二條 戶籍簿ハ正副二本ヲ設ク

戶籍簿ノ正本ハ之ヲ戶籍役場ニ備ヘ其副本ハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ保
存ス

第七十三條 家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戶籍ノ全部ヲ抹消シタルモノハ之ヲ戶
籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シテ帳簿ト爲シ之ヲ戶籍役場ニ保存ス

前項ノ帳簿ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

〇戶籍法 第五章 戶籍簿

第七十四條 第十二條乃至第十四條ノ規定ハ戶籍簿並ニ戶籍ノ謄本及ヒ抄本ニ之ヲ準用ス

第六章 戶籍ノ記載手續

第七十五條 戶籍ハ一戶毎ニ一本ヲ作ル

第七十六條 戶籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 戶主、前戶主、及ヒ家族ノ氏名
- 二 戶主ノ族稱及ヒ本籍地但家族ト戶主ト族稱ヲ異ニスル場合ニ於テハ家族ニ付テモ其族稱ヲ記載スルコトヲ要ス
- 三 戶主及ヒ家族ノ出生ノ年月日
- 四 戶主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタル者ニ付テハ此記載ヲ要セス
- 五 戶主並ニ家族ノ父母ノ氏名及ヒ其父母ト戶主又ハ家族トノ續柄
- 六 戶主ト前戶主トノ續柄及ヒ家族ト戶主トノ續柄但家族ノ中他家ヨリ入りテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戶主トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト戶主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス
- 七 他家ヨリ入りテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍地、原籍ノ戶主ノ氏名、族稱及ヒ其戶主ト戶主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄
- 八 他家ヨリ入りテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト他ノ家族トノ續柄

テハ其者ト他ノ家族トノ續柄

九 戶主又ハ家族ノ身分ノ變更及ヒ其原因並ニ年月日

第七十七條 後見人アル者ニ付テハ後見人ノ氏名、住所及後見人ノ就職並ニ任務終了ノ年月日

第一 戶主

第二 戶主ノ直系尊屬

第三 戶主ノ配偶者

第四 戶主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者

第五 戶主ノ傍系親及ヒ其配偶者

第六 戶主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

直系尊屬、直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者ハ親族間ノ順位ニ依リ親族間ノ順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ其順序ヲ定ム

第七十八條 戶籍吏カ身分登記ヲ爲シ又ハ戶籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ次條以下ノ規定ニ從ヒテ戶籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第七十九條 家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記及ヒ前戶主又ハ

◎戶籍法 第六章 戶籍ノ記載手續

戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ基キテ新戸主ノ戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ
抹消シ且其戸籍ト新戸主ノ戸籍トニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス
胎兒カ家督相續人ナル場合ニ於テハ其出生ニ至ルマテ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス
此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ノミヲ抹消シ家督相續人ノ胎兒ナル旨
ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十條 分家、廢絶家再興其他新家ヲ立ツヘキ事件ノ登記ヲ爲シ又ハ轉籍若クハ無
籍戸主ノ就籍ノ届出ヲ受理シタルトキハ其登記又ハ届出ニ基キテ戸籍ヲ編製シ轉籍届書
ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製スルニハ第百七十六條ニ掲ケタル事項ノ外各場合ニ付キ
特殊ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十一條 復籍拒絶ノ登記ヲ爲シタルトキハ復籍ヲ拒絶シタル者ノ戸籍ニ登記ノ要旨
ノ記載スルコトヲ要ス

第百八十二條 廢絶家ノ登記ヲ爲シタルトキハ最終戸主ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ
抹消スルコトヲ要ス

第百八十三條 單身戸主ノ死亡又ハ失踪ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其家ニ家督相續人ナ
キコト分明ナルトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡
者又ハ失踪者ノ戸籍ニ絶家ノ原因及ヒ年月日ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十四條 戸籍吏ノ管轄地内ニ於ケル本籍地變更ノ届出ヲ受理シタルトキハ事由ヲ戸
籍ニ記載シ舊本籍地ニ關スル記載ヲ抹消シ新本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十五條 前六條ノ場合ヲ除ク外身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタル
トキハ其登記又ハ届出ニ基キ第百七十六條ニ掲ケタル事項ヲ戸籍ニ記載スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ第百八十條第二項ノ規定ニ依リテ戸籍ニ記載シタル事項ノ變更アルト
キハ其變更ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十六條 戸籍ヲ編製シタル後一人又ハ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキトキハ第百七十七條ノ
順序ニ拘ハラヌ戸籍ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ得

第百八十七條 一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ
戸籍ニ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十八條 入籍ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ入籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄
ヨリ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關
スル届書ヲ送付スルト同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ通知スルコトヲ要ス
第百八十九條 除籍ノ手續ヲ爲スヘキ場合ニ於テ除籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄
ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨
ノ通知ヲ受ケタル後其通知ノ發送及ヒ受附ノ年月日ヲ戸籍ニ記載シテ除籍ノ手續ヲ爲ス
コトヲ要ス

轉籍ニ因リテ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外轉籍地及ヒ轉籍ノ年

◎戸籍法 第六章 戸籍ノ記載手續

月日ヲ記載スルコトヲ要ス
第九十條 身分登記又ハ戶籍ニ關スル届出ニ基キテ戶籍ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テハ前
一條ニ規定シタル事項ノ外身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戶籍ニ關スル届書ノ受附年
月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十一條 第十八條、第二十九條及ヒ第三十一條ノ規定ハ戶籍ノ記載ニ之ヲ準用ス
第九十二條 戶籍用紙中ノ一部分ヲ用キ盡シタルトキハ掛紙ヲ以テ用紙ニ充ツルコトヲ
得

掛紙ヲ爲シタルトキハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス
第九十三條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ戶籍ニ記載シタル
圖畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ改正シタルモノト看做ス

第九十四條 第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ニ依リテ戶籍ヲ編製シタルトキハ戶籍
吏ハ遲滞ナク其副本ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス
第七章 戶籍ニ關スル届出

第九十五條 戶籍吏ノ管轄地外ニ本籍ヲ轉セント欲スルトキハ戶主ヨリ左ノ諸件ヲ具シ
戶籍ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ轉籍地ノ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス
一 轉籍者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業
二 原籍地及ヒ轉籍地
前項ノ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

第九十六條 戶籍吏ノ管轄地内ニ於テ本籍地ヲ變更セント欲スルトキハ戶主ヨリ原籍地
及ヒ新本籍地ヲ具シテ其旨ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス
第九十七條 届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リ本籍ヲ有セス又ハ複本籍ヲ有スル者ハ就籍又
ハ除籍ノ届出ヲ爲サントスル戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其届出
ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條 就籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判
ノ謄本ヲ添ヘテ就籍スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
一 就籍スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日時、職業及ヒ就籍スヘキ地
二 就籍スヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ其者ト父母トノ續柄
三 本籍ヲ有セサリシ原因
四 就籍スヘキ者カ前ニ本籍ヲ有セシトキハ其舊本籍地
五 就籍スヘキ者カ戶主ナルトキハ其旨

六 就籍スヘキ者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱、職業及ヒ其者ト戶主トノ續柄
七 就籍スヘキ者カ戶主及ヒ家族ナルトキハ戶主、家族ノ別及ヒ家族ト戶主トノ續柄
八 就籍スヘキ者カ他家ヨリ入リテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ナルトキハ其原籍地、
原籍ノ戶主ノ氏名、族稱及ヒ其戶主ト就籍スヘキ者トノ續柄

前項第六號及ヒ第七號ノ場合ニ於テ就籍スヘキ家族カ他家ヨリ入リテ他ノ家族ノ配偶者
ト爲リタル者ナルトキ又ハ他ノ家族ヲ經テ戶主トノ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ届書
◎戶籍法 第七章 戶籍ニ關スル届出 四十三

其者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載シ若シ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ其者ト他ノ家族トノ續柄ノミヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條 除籍ノ届出ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ騰本ヲ添ヘテ除籍スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 除籍スヘキ者ノ氏名、族稱、職業、本籍地及ヒ複本籍地
- 二 複本籍ヲ有セル原因
- 三 除籍スヘキ者カ本籍ト複本籍トニ於テ身分ヲ異ニスルトキハ本籍並ニ複本籍ニ於ケル身分及ヒ其身分ノ異ナル原因

第二百條 就籍又ハ除籍スヘキ者カ家族ナルトキ又ハ戸主及ヒ家族ナルトキハ前二條ノ届出ハ戸主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百一條 第九十八條及ヒ第九十九條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百二條 第四十三條、第四十四條、第四十六條、第四十九條乃至第五十二條、第五十四條、第五十五條、第五十八條及ヒ第六十二條乃至第六十六條ノ規定ニハ本章ノ届出ニ之ヲ準用ス

第八章 抗告

第二百三條 身分登記又ハ戸籍ニ關スル事件ニ付キ戸籍吏ノ處分ヲ不當トスル者ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四條 抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ其他ノ關係書類ヲ添フルコトヲ要ス

第二百五條 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ戸籍吏ニ送付シテ其意見ヲ求めルコトヲ要ス

第二百六條 戸籍吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル書類ヲ五日内ニ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第二百七條 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ其理由アリトスルトキハ戸籍吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ之ヲ戸籍吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第二百八條 裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第九章 罰則

第二百十條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ十圓以下ノ過料ニ處セラル

◎戸籍法 第八章 抗告第九章罰則

四十五

第二百一十一條 期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササルニ因リ戸籍吏カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ尙ホ其届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處セラレ

第二百一十二條 戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處セラレ

- 一 正當ノ理由ナクシテ身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ヲ受理セサルトキ
- 二 身分登記又ハ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百一十三條 戸籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以下ノ過料ニ處セラレ

- 一 正當ノ理由ナクシテ身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閲覧ヲ拒ミタルトキ
- 二 正當ノ理由ナクシテ身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ交付セヌ又ハ身分若クハ戸籍ニ關スル届出又ハ申請ノ受理ノ證明書ヲ交付セサルトキ

第二百一十四條 本章ニ定メタル過料ノ裁判ハ過料ニ處セラレヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第二百一十五條 自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戸籍ニ關シ詐偽ノ届出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ十一日以上四年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處セラレ

附 則

第二百一十六條 市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ以テ戸籍吏ト

シ其吏員ノ職務ヲ行フ役場ヲ以テ戸籍役場トス

市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スヘキ者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其事務ヲ代理スヘキ者ヲ定ム

市參事會員其他戸籍吏ノ職務ヲ行フヘキ吏員ナキ地ニ於テ此等ノ者ニ代ハリテ戸籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者モ亦前項ノ手續ニ依リテ之ヲ定ム

第二百一十七條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ハ之ヲ市町村ノ收入トス但國庫ヨリ戸籍役場ノ經費ヲ支辨スル地ニ在リテハ之ヲ國庫ノ收入トス

手数料ノ金額ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百一十八條 本法ノ規定ニ依リ届出人其他ノ者ノ署名、捺印ヲ要スル場合ニ於テ其者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セヌ又ハ名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ書面ニ其事ヲ附記スルコトヲ要ス

第二百一十九條 明治三十一年十二月三十一日マテハ從前登記目録トシテ備ヘタル帳簿ヲ以テ身分登記簿ニ代用スルコトヲ得

第二百二十條 登記目録ノ冊數又ハ紙數カ身分登記簿ニ代用スルニ足ラサル場合ニ於テハ明治三十一年十二月三十一日マテノ身分登記簿ニ限リ戸籍吏ハ第九條ノ規定ニ拘ハラヌ

◎戸籍法 第九章 罰則附則

登記目録ヲ作製スルト同一ノ手續ニ依リテ之ヲ作製スルコトヲ得
前項ノ規定ハ登記目録ノ設ナカリシ地ノ身分登記簿ニ之ヲ準用ス

第二百二十一條 本法ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ改製スヘキ時期ハ各地又ハ一般ニ付キ司法大臣
之ヲ定ム

本法施行後戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ於テハ其記載又ハ編製ニ付
テハ本法ノ規定ニ從フコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ其事實ヲ知ルコト能ハサル
モノ又ハ從前ノ戸籍用紙中其事項ヲ記載スヘキ區畫ノ設ナキモノハ其記載ヲ省クコトヲ
得

第二百二十二條 明治四年四月四日布告戸籍法、明治十九年内務省令第十九號及ヒ同年内
務省令第二十二號ハ寄留ニ關スル規定ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止シ其他ノ法令
ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

寄留ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ第五條ノ規定ヲ準用ス
第二百二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

法律第十二號參照

明治十九年九月二日内務省令第十九號ハ出生死去出入等届出方及寄留者届出方ノ件同月十
十六日内務省令第二十二號ハ戸籍取扱手續ナリ

司法省訓令第五號

控 訴 院 地方裁判所

區 裁 判 所 戸 籍 役 場

戸籍法取扱手續左ノ通相定ム

明治三十一年七月十三日

司 法 大 臣 大 東 義 徹

戸籍法取扱手續

第一條 身分登記簿ノ用紙ハ美濃十三行罫紙トシ其登記例ハ附錄第一號書式ノ振合ニ依ル
ヘシ

第二條 戸籍簿ノ用紙ハ附錄第二號様式ニ依リ其記載例ハ附錄第三號書式ノ振合ニ依ル
ヘシ

第三條 戸籍吏ハ毎年十月三十一日マテニ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ニ附錄第四號
書式ノ請求書ヲ添ヘ之ヲ監督區裁判所ニ送付スヘシ

第四條 市町村ノ戸籍簿ヲ二冊以上ニ分綴シタルトキハ其表紙ニ番號又ハ大字等ヲ附記ス
ヘシ

◎戸籍法取扱手續

第五條 戶籍役場ニ於テハ毎年受附帳ヲ製シ置キ身分及ヒ戶籍ニ關スル届出、報告其他ノ

書類ヲ受附タル順序ニ從ヒ之ニ其件名、差出人、受附ノ年月日及ヒ番號ヲ記入スヘシ

第六條 身分登記簿、戶籍簿及ヒ届書其他之ニ關スル書類ハ總テ鎖鑰アル書箱ニ藏メ其保管ヲ嚴ニシ倉庫ノ設ケアルモノハ倉庫ニ藏メ置クヘシ

第七條 身分登記簿及ヒ戶籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ戶籍吏ハ遲滞ナク其事

由、年月日、帳簿ノ冊數、市町村名等ヲ詳細ニ記載シ監督區裁判所判事ニ申報スヘシ

監督區裁判所判事カ前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ相當ノ調査ヲ爲シタル後之ヲ管轄地方

裁判所長及ヒ司法大臣ニ具申スヘシ

第八條 戶籍簿ヨリ除キタル戶籍ハ一个年毎ニ編綴シテ其表紙ニ明治何年除籍簿ト記載ス

ヘシ

第九條 身分登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ納付スルトキハ其目錄ヲ添附スヘシ

第十條 戶籍吏ノ職務ヲ代理スヘキ者カ登記及ヒ記載ヲ爲ストキハ代理ト記シ認印スヘシ

第十一條 身分登記簿又ハ戶籍簿ノ閱覽ヲ請求スル者アルトキハ吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱

覽セシムヘシ

第十二條 身分登記又ハ戶籍ノ謄本若クハ抄本ニハ其人別又ハ事項ノ終リニ空行ヲ存セス

附錄第五號書式ニ依リ認證文ヲ附記スヘシ

謄本又ハ抄本ハ其原本ト同一ノ用紙ヲ用ユヘシ

第十三條 官吏又ハ公吏カ其職務ヲ以テ身分登記簿、戶籍簿ノ閱覽又ハ身分登記、戶籍ノ

謄本若クハ抄本ヲ求ムルトキハ手数料及ヒ郵送料ヲ要セス

第十四條 身分又ハ戶籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書ハ附錄第六號書式ニ依ル

ヘシ

第十五條 戶籍吏カ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ニ對シ發スヘキ催告狀ハ附錄第七號書式ニ

準據スヘシ

第十六條 戶籍吏ノ定メタル催告期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササルトキ更ニ發スヘキ催告

狀ハ附錄第八號書式ニ準據スヘシ

第三以下ノ催告狀ヲ發スヘキトキハ第八號書式ヲ準用スヘシ

第十七條 行政區畫ノ變更ニ依リ甲町村カ乙町村ニ合併シタルトキハ廢止セラレタル戶籍

役場ニ存在スル身分登記簿戶籍簿其他之ニ關スル書類ハ遲滞ナク合併シタル乙町村戶籍

吏ニ引繼クヘシ

甲町村ノ一部カ乙町村ニ合併シタルトキハ合併シタル區域内ニ本籍ヲ有スル者ノ戶籍ハ

之ヲ分割シテ遲滞ナク合併シタル乙町村戶籍吏ニ引繼クヘシ但身分登記簿ハ引繼ヲ爲ス

ノ限ニ在ラス

前二項ノ場合ニ於テ引繼ヲ完了シタルトキハ其旨ヲ監督區裁判所ニ報告スヘシ

第十八條 身分登記及ヒ戶籍ニ關スル疑義ハ戶籍吏ヨリ監督區裁判所ヲ經由シテ司法大臣

稟伺スルコトヲ得

第十九條 戶籍役場ニハ左ノ印章ヲ備フヘシ

◎戶籍役場取手印

職印
何々市
町村戸
籍吏印
分六方

役場印
何市町
村戸籍
役場印
分八方

附録第一號
明治何年

本籍人
身分登記簿
出生之部

東京市麴町區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月六八、六九ノ一、七二ノ二)

麴町區麴町一丁目一番地戸主平民吳服商

父 飯 尾 太 郎
母 ウ

長男

一 郎

出生ノ時 明治參拾貳年參月四日午後五時

出生ノ場所 麴町區麴町一丁目一番地

届出人

飯 尾 太 郎

明治元年四月貳日生

石出生明治參拾貳年參月五日届出同日受附印
第二號(月六八、六九ノ一、七二ノ二、二五)

麴町區元園町二丁目二番地戸主平民菓子商兵
助長男無職業

父 米 田 兵 三
母 ト

長女

タ ッ

出生ノ時 明治參拾貳年參月五日午後四時

出生ノ場所 神田區今川小路三丁目三番地

寄留地 今川小路三丁目三番地

届出人

米 田 ト ラ

◎戸籍法取扱手續

明治貳年四月拾日生

石出生明治參拾貳年參月六日神田區へ届出同日同區戶籍吏井口清受附同月七日届書發送同

日受附⑩

第三號(月六八、六九ノ三、七一ノ二民七三五ノ三)

麴町區富士見町一丁目一番地戶主平民下
宿營業一作姊

母 竹 村 ト リ
私生子女 ク ハ

出生ノ時 明治參拾貳年參月拾日午後貳時拾五分

出生ノ場所 麴町區富士見町一丁目一番地

右クハ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルニ因リ一家創立
届出人 竹 村 ト リ
明治元年貳月五日生

右出生明治參拾貳年參月拾壹日届出同日受附⑩

第四號(月六八、六九ノ二、七一ノ三、〇七三五ノ二、七四六)

麴町區永田町三丁目三番地戶主平民無職
業ナヲ弟製靴業

父 益 田 三 郎

麴町區平河町五丁目四番地戶主平民無職
業次郎叔母

母 荒 瀬 カ 子

庶子男 荒 瀬 新

出生ノ時 明治參拾貳年五月六日午後拾時拾五分

出生ノ場所 麴町區平河五丁目四番地

右新出生前ニ認知セラレ
父ノ家ニ入ルコトヲ得サルニ因リ母ノ家ニ入ル

届出人 荒 瀬 次 郎

明治元年拾月五日生

右出生明治參拾貳年五月七日届出同日受附⑩

明治參拾貳年拾貳月貳拾九日登記終結ス

東京市麴町區戶籍吏氏名 職印

第一號欄外登記例

明治參拾貳年五月四日出生ノ時變更ノ裁判確定ニ付同月五日飯尾太郎ヨリ登記變更ノ申請

同日受附タルニ因リ裁判ノ趣旨ニ從ヒテ出生ノ時ヲ六時ト變更ス⑩

第二號欄外登記例

明治參拾貳年六月貳拾參日嫡出子否認ノ裁判確定ニ付同月貳拾五日米田兵三ヨリ登記變更

◎戶籍法取扱手続

ノ申請同日受附タルニ因リ裁判ノ趣旨ニ從ヒテダツヲ私生子女トシ父母ノ行ヲ米田兵三
妻トラト變更ス⑩

附錄第一號ノ二
明治何年
本籍人
身分登記簿
嫡出子否認之部

東京市麴町區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月七九)民八三三

女

明治參拾貳年參月五日生

右タツ否認ノ裁判明治參拾貳年六月貳拾參日確定

麴町區元園町二丁目二番地戶主兵助長男
平民無職業
否認者 米 田 兵 三

明治元年參月四日生

右嫡出子否認明治參拾貳年六月貳拾五日届出同日受附⑩

附錄第一號ノ三
明治何年
本籍人
身分登記簿
私生子認知之部

東京市神田區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

◎月籍法取扱手續

第一號(月八〇、〇民二七、八二九ノ一)

神田區錦町三丁目四番地戸主水本耕三兄

平民無職業太郎

勉

右母静岡縣靜岡市鷹匠町一番地戸主裁縫師乙

井熊吉妹無職業トキ

認知者

水 本 太 郎

右私生子認知明治參拾貳年拾月九日届出同日受附㊦

明治貳年八月七日生

第二號(月八〇)

神田區三河町三丁目三番地戸主平民無職

業大口丙次

明治參拾貳年
六月七日死亡

庶子男

龜 次 郎

右母四谷區舟町六拾番地戸主平民無職業向井カハ

認知者

大 口 丙 次

明治元年參月壹日生

右私生子認知明治參拾貳年五月貳日届出同日受附㊦
第三號(月八一、八四)

神田區今川小路一丁目五番地戸主山井三次

叔父平民無職業二郎

庶子

胎 兒

右母神奈川縣橫濱市吉田町五丁目拾番地戸主無職業一井ハナ

認知者

山 井 二 郎

明治元年壹月壹日生

右胎兒認知明治參拾貳年壹月貳日届出同日受附㊦

第三號欄外登記例

明治參拾貳年六月拾日山井二郎ヨリ胎兒死體分娩ニ付登記取消申請同日受附㊦

附錄第一號ノ四

明治何年

本籍人

身分登記簿

養子縁組之部

北豊島郡板橋町戸籍役場

◎戸籍法取扱手續

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(月八五民八四七)

北豊島郡板橋町千番地戸主平民農

秋友 太郎 吉

慶應元年參月八日生

養母

サカ

明治二年六月九日生

東京市小石川區原町百番地戸主農内山權

藏弟平民無職業

養子

三郎

明治拾年五月拾日生

右父

無職業

内山良一

右母

ラク

北豊島郡板橋町六拾番地農

證人

上

井好助

明治貳年六月八日生

北豊島郡板橋町五十番地農

證人

下

口尙次

明治五年七月壹日生

右養子縁組明治拾貳年參月貳日届出同日受附印

第二號(月八五)

北豊島郡板橋町四十番地戸主平民無職業

養父

新井 太郎 作

明治元年六月參拾日生

養母亡

夕子

同郡板橋町五番地戸主農川下管六養女平

民無職業

養子

カク

明治拾年六月貳日生

右父亡

向坂 太郎

十三

◎月籍法取扱手續

右母東京市本郷區丸山町五番地無職業

十四

右前養父北豐島郡板橋町五番地農

エ
ン

右前養母亡

ト
管
六
キ

東京市本郷區東片町一番地青物商

山
五
郎
明治五年六月四日生

寄留地北豐島郡板橋町五番地

上
山
五
郎
明治四年五月貳日生

證人

北豐島郡板橋町三番地農

坂
上
新
二

右養子縁組明治拾貳年拾月六日届出同日受附㊦

附録第一號ノ五
明治何年

本籍人

身分

登記簿
養子縁組之部

北豐島郡板橋町戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戸九五、民八六四)

明治拾貳年參月貳日縁組

北豐島郡板橋町千番地戸主平民農

養父

秋
友
太
郎
吉

養母

慶應元年參月八日生
サ
カ

東京市小石川區原町百番地戸主農内山權

明治貳年六月九日生

藏弟平民無職業

養子

三
郎

明治拾年五月拾日生

◎戸籍法取扱手續

十五

右父 内山良一
母右 ラク

證人 北豊島郡板橋町六十番地農 上井好助
明治貳年六月八日生

同郡板橋町五十番地農

證人 下口尙次
明治五年七月壹日生

右協議ニ因ル養子離縁明治參拾五年八月七日届出同日受附印

附録第一號ノ六
明治何年

本籍人 身分登記簿
婚姻之部

東京市麴町區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號戸二〇二一〇六民七七五

麴町區麴町三丁目五番地戶主士族官吏

夫 青木太郎 明治五年六月貳日生

右父 無職業 青木一 作

右母 神奈川縣横濱市吉田町一丁目八番地戶主

妻 下宿營業柴野三郎妹平民無職業

明治拾年拾月壹日生

右父 無職業 柴野三 作

右母 柴野三 作

戸籍法取扱手續

神奈川縣橫濱市吉田町三丁目一番地
寄留地 麴町區元園町一丁目二十番地
酒類營業

證人

福 內 三 郎

神田區錦町三丁目一番地無職業

明治八年五月四日生

證人

鈴 木 喜 一

明治元年六月七日生

右婚姻明治參拾壹年九月八日届出同日受附(印)

第二號(月一〇二、民七七五)

麴町區飯田町一丁目二十六番地戶主平民
裁縫師

妻

口 上 ヲ ト

右父神奈川縣橫濱市戶部町百番地無職業

明治七年參月六日生

口 上 善 八

右母亡

埼玉縣北足立郡大宮町三番地戶主無職業

ナ カ

下屋谷次叔父平民小學校教員

夫

文 作

明治元年九月七日生

右父亡

下 屋 權 一

右母 農

ナ ベ

本郷區追分町五番地材木商

證人

谷 田 松 吉

明治貳年四月貳日生

麴町區永田町二丁目一番地無職業

證人

田 添 治 作

明治元年壹月五日生

右入夫婚姻明治參拾壹年拾壹月拾日届出同日受附(印)

第三號(月六〇、六一、三ノ二、二八ノ)

麴町區元園町一丁目八番地戶主平民雜貨商

夫

井 口 冷 水

千八百五拾八年九月貳拾六日生

右父

官吏 井 口 正 太 郎

右母

夕 カ 十九

◎月簡法取扱手續

妻 獨逸國伯林シェーネーベルヒ街第三十五番女學生^{二十}
獨國人 ヘル

千八百六拾壹年五月參拾日生

右父亡 ヘルマン、ノイベルヒ
右母亡 マ

證人 同國伯林フランス街第八番裁縫匠

ウイルヘルム、ストローヘル 貳拾六歲

證人 同國伯林フランス街第三番女學生

アントニー、リーバウ 貳拾貳歲

伯林身分取扱吏

パウ、ル、レン、チ

右婚姻證書作製者

婚姻證書作製千八百八拾九年拾月九日

右婚姻證書謄本明治參拾壹年拾貳月貳拾日外務大臣甲野乙郎發送同日受附[㊦]

第一號欄外登記例

明治參拾貳年五月貳日婚姻無效ノ裁判確定ニ付同月參日東京地方裁判所檢事甲田丁郎ヨリ
登記取消請求同月四日受附[㊦]

第三號欄外登記例

本籍人身分登記簿國籍得喪之部第一號參着

附錄第一號ノ七

明治何年

本籍人

身分登記簿

婚姻之部

東京市麴町區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月一〇九、民八一〇)

明治參拾壹年拾壹月拾日婚姻

麴町區飯田町一丁目二十六番地戶主平民裁縫師

◎戶籍法取扱手續

妻

口

上

ヲ

ト

明治七年參月六日生

右父神奈川縣橫濱市戸部町百番地無職業

口

上

善

八

右母亡

ナ

カ

埼玉縣北足立郡大宮町三番地戸主無職業

下屋谷次叔父平民小學校教員

夫

文

作

明治元年九月七日生

右父亡

下

屋

權

一

右母 農

ナ

ハ

麴町區土手三番町七番地印刷業

川

田

鎗

一

證人

明治八年七月六日生

麴町區元園町一丁目六番地土木請負業

戸

部

辰

三

證人

明治參年壹月五日生

右協議ニ因ル離婚明治參拾貳年拾月六日届出同日受附㊦

附錄第一號ノ八
明治何年

本籍人

身分

登記簿

後見之部

橫濱市戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

橫濱區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月一四、九〇〇)

橫濱市若松町三番地戸主無職業

被後見人

甲

野

巳

太

郎

明治參拾壹年八月七日生

右巳太郎ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治參拾壹年八月拾日後見開始

○戸籍法取扱手帳

二十三

東京市芝區田町六丁目十番地平民石屋
住所 橫濱市若松町五番地
後見人 森 田 丁 吉
明治元年貳月貳日生

右丁吉明治參拾壹年八月拾貳日就職
右後見開始明治參拾壹年八月拾參日届出同日受附⑩
第二號月一四、一五

橫濱市若松町三番地戶主無職業
被後見人 甲 野 巳 太郎

右巳太郎ニ對シ親權ヲ行フ者ナキニ因リ明治參拾壹年八月拾日後見開始
橫濱市老松町七番地平民無職業
住所 同

後見人 原 村 巳 之 助
明治元年拾月五日生

右巳之助明治參拾壹年拾月拾九日就職

前任者 森 田 丁 吉
右後見人更迭明治參拾壹年拾月貳拾日届出同日受附⑩

第三號月一七

橫濱市若松町三番地戶主無職業
被後見人 甲 野 巳 太郎
明治參拾壹年八月七日生

橫濱市老松町七番地無職業

後見人 原 村 巳 之 助

右巳之助明治參拾壹年拾月拾九日就職
死亡ニ因リ明治參拾五年六月貳日任務終了

橫濱市若松町五番地平民金物商
後見監督人 前 田 丙 助
明治元年參月拾日生

右後見人任務終了明治參拾壹年拾貳月貳拾五日届出同日受附⑩

附錄第一號ノ九
明治何年

本籍人 身分登記簿
隱居之部

東京市京橋區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月一、九、一、三、民七五二、七五三、七五七、七五八)

京橋區入船町參拾番地戶主平民船問屋

須田平助

天保拾年六月七日生

右平助病氣ニ因リ家政ヲ執ルコト能ハサルニ付キ隱居

平助三男無職業

家督相續人

初三

明治元年貳月五日生

右隱居明治參拾貳年四月五日届出同日受附印

第一號欄外登記例

明治參拾貳年拾月拾日隱居取消ノ裁判確定ニ付同月拾貳日京橋區築地一丁目二番地戶主平民無職業平助弟須田萬助ヨリ登記取消申請同日受附印

附錄第一號ノ十

明治何年

本籍人

身分登記簿

失踪之部

久良岐郡戶部村戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

横濱區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月一、三、三、二、四)

久良岐郡戶部村百番地戶主農

明治參拾貳年壹月貳日失踪宣告

○戶籍法取扱手續

二十八
谷田音七

明治參年五月六日生

同郡戶部村百二番地戶主士族無職業音七兄

宣告請求者 天野丁吉

明治元年貳月貳日生

右失踪明治參拾貳年貳月拾日届出同日受附㊟

第一號欄外登記例

明治參拾五年八月四日失踪宣告取消ノ裁判確定ニ付同月五日久良岐郡戶部村百三番地戶主平民農音七叔父森口丙吉ヨリ登記取消申請同日受附㊟

附錄第一號ノ十一
 明治何年
 本籍人
 身分登記簿
 死亡之部

東京市牛込區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月二五)

牛込區加賀町二丁目三番地戶主平民牛乳商

乙吉長男

菅野丙作

明治貳拾年四月五日生

死亡ノ時 明治參拾貳年壹月六日午後參時參拾分

死亡ノ場所 牛込區加賀町二丁目三番地

菅野乙吉

明治六年壹月六日生

右死亡明治參拾貳年壹月七日届出同日受附㊟

第二號(月二九)

牛込區早稻田町百六番地戶主平民万吉三男

◎戶籍法取扱手續

住 田 次 郎 吉
明治五年參月貳日生

死亡ノ時 明治參拾貳年貳月四日午後壹時貳拾分
死亡ノ場所 市ヶ谷監獄署

報告者 市ヶ谷監獄署長典獄 井 河 實

右死亡明治參拾貳年貳月四日報告同日受附印
第三號(月一三〇ノ一二二八ノ三)

牛込區藥王寺前町五番地戸主 男 氏 家 直 高

明治參年四月四日生

死亡ノ時 明治參拾貳年參月參日午後貳時五拾分
死亡ノ場所 東京丸船中

證人 神奈川縣橫濱市戸太町三番地學生 爲 永 時 藏

明治五年六月八日生

證人 静岡縣静岡市鷹匠町八番地無職業 龜 田 良 次

明治元年五月九日生

右航海日誌作製者 東京丸船長 野 口 榮 造

航海日誌作製明治參拾年參月參日
右死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本明治參拾貳年參月拾日發送同日受附印

附錄第一號ノ十二
明治何年

本籍人 身分 登記簿
家督相續之部

東京市赤坂區戸籍役場

數紙表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月一三三、一三四)

赤阪區青山南町三丁目二番地戶主士族官吏
吉次二男 住 田 辰 藏

明治參年貳月四日生

右家督相續明治參拾貳年壹月七日届出同日受附
第二號(月一三三)

赤阪區臺町五十番地戶主士族學生
所在地 獨逸國伯林
達夫長男 末 岡 種 松

明治九年拾月貳日生

明治參拾貳年貳月四日前戶主父達夫死亡ニ因リ家督相續戶主ト爲ル
右家督相續明治參拾貳年參月參拾日届書發送同年五月六日受附
第三號(月一三五、一三六)

赤阪區青山北町一丁目四番地戶主
胎 兒
明治參拾貳年四月貳日前戶主父作之進死亡ニ因リ相續開始
赤阪區青山北町一丁目四番地士族無職業

届出人 母 山 口 タ ツ

明治參年貳月四日生

右家督相續明治參拾貳年四月參日届出同日受附

第一號欄外登記例

明治參拾貳年四月五日家督相續回復ノ裁判確定ニ付同年五月壹日相續權回復者任田吉次長
男丑郎ヨリ登記取消申請同日受附

第三號欄外登記例

明治參拾貳年五月五日胎兒死體分娩ニ付赤阪區青山北町一丁目四番地庶子山口龜男ヨリ同
年六月拾日登記取消申請同日受附

附錄第一號ノ十三
明治何年

本籍人 身分 登記簿
推定家督相續人廢除之部

東京市本郷區戶籍役場

戸籍法取扱手續

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戸一三七、民九七五)

本郷區元町一丁目五番地戸主平民下宿營業

北内力藏長男無職業

推定家督相續人

太郎

明治拾年八月七日生

右太郎被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シタルカ爲メ廢除セラル明治參拾貳年五月四日裁判確定

被相續人

北内力藏

文化貳年貳月四日生

右推定家督相續人廢除明治參拾貳年五月六日届出同日受附(印)第二號(戸一三七、一三八、民九七五)

本郷區弓町三丁目一番地戸主福永吉藏長男無職業

推定家督相續人

一郎

明治五年貳月八日生

右一郎家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リ刑ニ處セラレタルカ爲メ廢除セラレ明治參拾貳年拾月貳日裁判確定

被相續人吉藏明治參拾貳年六月四日死亡

本郷區湯島新花町六十番地戸主平民無職業
遺言執行者 一郎叔父 福田龜三

明治元年參月貳日生

右推定家督相續人廢除明治參拾貳年拾月四日届出同日受附(印)

附錄第一號ノ十四
明治何年

本籍人
身分登記簿
家督相續人指定之部

東京市京橋區戸籍役場

◎戸籍法取扱手續

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月一四〇、一四三、民九七九、九八〇)

京橋區采女町一丁目五番地戸主辰郎三男
平民書籍商

山 岸 吉 次

法定ノ推定家督相續人ナキニ付右吉次指定セラレ

明治拾年壹月七日生

京橋區采女町三丁目一番地戸主平民無職業

被相續人 吉次兄 黒 田 吉 郎

明治元年貳月五日生

右家督相續人指定明治參拾貳年五月貳日届出同日受附㊦
第二號(月一四〇、一四二)

京橋區銀座一丁目三番地戸主一郎弟平民無職業

中 野 又 一

明治拾年壹月五日生

被相續人京橋區銀座三丁目二番地平民下田甲三法定ノ推定家督相續人ナキニ付右又一指
定セラレ

明治參拾貳年七月壹日被相續人死亡

京橋區采女町二丁目一番地戸主平民無職業

遺言執行者 甲三弟 高 田 乙 助

明治元年壹月五日生

右家督相續人指定明治參拾貳年七月拾日届出同日受附㊦
第三號(月一四二)

京橋區采女町一丁目五番地戸主辰郎三男

平民書籍商

山 岸 吉 次

明治參拾貳年五月貳日指定

明治拾年壹月七日生

京橋區采女町三丁目一番地戸主平民無職業

指定取消人 吉次兄 黒 田 吉 郎

明治元年貳月五日生

右家督相續人指定ノ取消明治參拾貳年拾月貳拾五日届出同日受附㊦

○月鈔法取扱手續

第一號欄外登記例

明治參拾貳年拾月貳拾五日黒田吉郎ヨリ登記取消ノ申請同日受附印

附録第一號ノ十五
明治何年

本籍人
身分
登記簿
入籍、離婚及ヒ復籍拒絶之部

東京神田區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號戸一四六、民七三五ノ二

神田區鎌倉河岸二町目三番地戸主酒間屋
落合六兵衛

文化元年貳月四日生

右六兵衛妹キン私生子神田區三河町三町目一
番地戸主平民無職業

廢家ノ上入籍

尾野兵助

明治五年參月貳日生

右入籍明治參拾壹年拾月五日届出同日受附印
第二號戸一四六、民七三七

神田區錦町一町目四番地戸主無職業

奥田七郎

文化貳年參月五日生

神田區鈴木町八番地戸主平民無職業

廢家ノ上入籍 七郎弟 下田鶴松

明治元年貳月拾日生

右入籍明治參拾壹年拾月貳拾日届出同日受附印
第三號戸一四六、民七三八

神田區小川町五十番地戸主平民書籍商山口太
郎(明治元年七月六日生)妻無職業

○戸籍法取替手續

明治七年五月四日生
右タカ兄本郷區追分町三番地戸主官吏添田五郎

(天保貳年參月六日生)三女

入籍

右入籍明治參拾壹年拾壹月貳日届出同日受附㊦

第四號(戸一四八、民七五〇)

神田區美土代町一丁目四番地戸主平民

青物商三平弟無職業

戸口平次

明治五年六月八日生

右平次明治參拾壹年貳月四日戸主ノ同意ヲ得スシテ婚姻ヲ爲シタルニ付離籍セラレ

離籍人

戸口三平

明治元年拾月貳日生

右離籍明治參拾貳年壹月六日届出同日受附㊦

第五號(戸一四八、民七五〇)

神田區堅大工町六番地戸主平民農徳兵衛

三男無職業

河内徳三郎

明治參年貳月九日生

右徳三郎明治參拾貳年貳月四日戸主ノ同意ヲ得スシテ養子ヲ爲シタルニ付離籍セラレ

徳三郎ト共ニ家ヲ去ル

徳三郎養女

カマ

明治拾九年八月六日生

離籍人

河内徳兵衛

文化參年貳月四日生

右離籍明治參拾貳年貳月貳拾日届出同日受附㊦

第六號(戸一四九、民七五〇)

神田區堅大工町六番地戸主農

離籍ヲ爲シタル戸主

河内徳兵衛

文化參年貳月四日生

小石川區指ヶ谷町八番地戸主平民無職業

一家創立者

河内徳三郎

明治參年貳月九日生

右徳三郎父徳兵衛ノ同意ヲ得スシテ養子ヲ爲シタルカ爲メ明治參拾貳年貳月貳拾日離籍

セラレ

一家創立

徳三郎ノ家ニ入ル

徳三郎養女

カマ

明治拾九年八月六日生

◎戸籍法取扱手續

右離婚ニ因ル一家創立明治參拾貳年參月壹日届出同日受附⑨
第七號(月一五〇、民七五〇)

神田區錦町一丁目三番地戸主運送業川上秀雄
(明治元年參月四日生)養子無職業

音吉

明治九年八月七日生

右音吉明治參拾壹年五月參日戸主ノ同意ヲ得スシテ養子ト爲リタルニ付復籍ヲ拒絕セラル

下谷區練堀町拾番地平民菓子商

寄留地 神田區錦町三丁目一番地

拒絕者 音吉實父 下井 儀一

文化貳年四月七日生

右復籍拒絕明治參拾壹年拾貳月貳日届出同日受附⑩
第八號(月一五二、民七五〇)

下谷區練堀町拾番地戸主菓子商

拒絕者 下井 儀一

文化貳年四月七日生

神田區美土代町一丁目五番地戸主平民無職業

一家創立者 川上音吉

明治九年八月七日生

右音吉父儀一ノ同意ヲ得スシテ養子ト爲リタルカ爲メ明治參拾壹年拾貳月貳日復籍ヲ拒絕セラル 離婚ニ因リ一家創立

右復籍拒絕ニ因レル一家創立明治參拾貳年壹月七日届出同日受附⑪
第九號(月一五二、民七四〇)

神田區美土代町一丁目五番地戸主無職業

廢家ノ最終ノ戸主 川上音吉

明治九年八月七日生

神田區今川小路二丁目三番地戸主平民無職業

一家創立者 音吉妹 田上ヲク

明治拾壹年貳月參日生

右ヲク兄音吉明治參拾五年貳月五日廢家シテ他家ニ入りタルカ爲メ復籍スルコト能ハス

離婚ニ因リ一家創立

右廢家ニ因ル一家創立明治參拾九年八月七日届出同日受附⑫

◎月籍法取扱手續

附錄第一號ノ十六
明治何年

本籍人
身分登記簿
廢家及ヒ絶家之部

東京市淺草區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戶一五二)

神田區美土代町一丁目五番地戶主平民無職業

廢家人

養子 川 上 音 吉

明治九年八月七日生

妻

カク

明治拾貳年參月四日生

淺草區左衛門町六十五番地戶主酒商

右音吉ノ入ル
ヘキ家ノ戶主

上 山 卓 一

明治元年貳月參日生

右廢家明治參拾五年貳月五日届出同日受附㊦

第二號(戶一五三)

淺草區左衛門町河岸第六號地戶主無職業

絶家ノ最終ノ戶主

岡 田 三 平

天保參年六月四日生

右三平家督相續人ナキニ因リ明治參拾壹年九月六日絶家

淺草區三筋町三丁目一番地戶主平民藥種店

一家創立者

岡 田 三 次

明治元年貳月四日生

三次妻

明治九年拾月五日生

右絶家及ヒ一家創立明治參拾貳年八月八日届出同日受附㊦

◎戶籍法取扱手續

附錄第一號ノ十七
明治何年

本籍人
身分
登記簿
分家及ヒ廢絶家再興之部

東京市芝區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戸一五四)

神奈川縣橫濱市伊勢町二丁目一番地戶主

無職業

本家戶主

中 戶 市 兵 衛

芝區明舟町三十五番地戶主平民牛肉販賣營業

分家戶主 市兵衛第 中 戶 市 三

明治元年參月貳日生

右父神奈川縣橫濱市伊勢町二丁目一番地中戶市右衛門

右母

市三妻

明治拾年五月四日生

右父神奈川縣橫濱市扇町二丁目一番地革商松下高尾

右母亡

右分家明治參拾貳年壹月六日届出同日受附印
第二號(戸一五五)

淺草區左衛門河岸第六號地戶主無職業

絶家ノ最終ノ戶主 岡 田 三 平

右三平家督相續人ナキニ因リ明治元年九月六日絶家

芝區日蔭町二丁目一番地戶主平民無職業

絶家再興人 三平甥 岡 田 丹 次

明治拾年貳月六日生

右絶家再興明治參拾貳年九月八日届出同日受附印

○戶籍法取扱手續

附錄第一號ノ十八
明治何年

本籍人
身分
登記簿
國籍得喪之部

東京市麴町區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戶一五七)

夫	麴町區元園町一丁目八番地戶主平民雜貨商
妻	井口冷水
	千八百五拾八年九月貳拾六日生
	獨國人無職業

千八百六拾壹年五月參拾日生

右ヘルミ一婚姻ニ因リ國籍ヲ取得ス

婚姻證書作製者
伯林身分取扱吏

婚姻證書作製 千八百八拾九年拾月九日

右婚姻證書ノ謄本明治參拾壹年拾貳月貳拾日外務大臣甲野乙郎發送同日受附
第二號(戶一五七)

養父	麴町區永田町一丁目六番地平民官吏
	寺山太郎
	明治元年壹月六日生

養母	
	イヨ
	明治五年八月七日生

養子	英國人小學校教員
	マ
	明治拾年六月九日生

右マリ一縁組ニ因リ國籍ヲ取得ス

右養子縁組明治參拾貳年六月七日届出同日受附

第三號(戶一五八)

麴町區麴町九丁目五番町戶主平民茶商飯

◎戶籍法取扱手續

日本三庶子男獨國人

認知ニ因リ國籍ヲ取得シタル者

右母 獨國人

マリー、ノイベルヒ

明治參拾年參月四日生

右私生子認知明治參拾貳年九月五日届出同日受附
第四號(月一六〇)

麴町區平河町二丁目三番地戸主平民無職業

河合アキ

明治參年貳月六日生

右アキ佛國人アンリ、ベルナルト婚姻ヲ爲スニ因リ國籍喪失

右國籍喪失明治參拾貳年拾壹月拾日届出同日受附

第一號欄外登記例

本籍人身分登記簿婚姻之部第三號參看

第二號欄外登記例

本籍人身分登記簿養子縁組之部第二十號參看

第三號欄外登記例

本籍人身分登記簿私生子認知之部第四號參看

附錄第一號ノ十九

明治何年

本籍人身分

登記簿
氏名及ヒ族稱變更之部

東京市牛込區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名 職印

第一號(月一六四)

牛込區矢來町六番地戸主平民湯屋營業

山本又吉

明治六年八月九日生

祖先ノ苗字湮滅ヲ憂ヒ川合氏ヲ廢シ山本氏ニ復ス明治參拾壹年拾貳月五日許可

戸籍法取扱手帳

右氏ノ復舊明治參拾壹年拾貳月六日届出同日受附印

第二號(月一六四)

牛込區早稻田町五十番地戸主爲右衛門長

男平民青物商

本 木 長 之 助

明治元年七月六日生

同氏名ノ者アルニ因リ爲藏ヲ長之助ト稱ス明治參拾貳年拾貳月拾日許可

右名ノ改稱明治參拾壹年拾貳月拾壹日届出同日受附印

第三號(月一六五)

牛込區山伏町三番地戸主華族官吏(舊士族)

新 田 義 近

明治元年貳月九日生

右義近明治參拾貳年壹月八日ノ辭令ニ以テ華族ニ列セラレ

右族稱變更明治參拾貳年壹月九日届出同日受附印

附錄第一號ノ二十年
明治何年

本籍人

身分 登記簿

身分登記變更之部

東京市麴町區戸籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(月一六七一六八)

麴町區麴町一丁目一番地戸主平民吳服商

飯尾太郎同人妻ウシ

長男

一 郎

明治參拾貳年參月五日右一郎出生登記中出生ノ時ノ行ニ午後五時トアルヲ午後六時ト變

◎戸籍法取扱手續

五十三

更ス明治參拾貳年五月四日許可ノ裁判確定

申請人

飯 尾 太 郎

明治元年四月貳日生

右出生登記變更明治參拾貳年五月五日申請同日受附⑩

附録第一號ノ二十一

明治何年

非本籍人
身分 登記簿
出生之部

東京市芝區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戸六八、六九ノ一七二ノ一)

神奈川縣橫濱市吉田町一丁目五番地戶主
士族官吏

寄留地 東京市芝區巴町二丁目三番地

父 龜田安之助
母 ヲ シ

長男

道太郎

出生ノ時 明治參拾貳年參月四日午後六時拾分

出生ノ場所 芝區巴町二丁目三番地

届出人

總 田 安 之 助

明治元年六月五日生

右出生明治參拾貳年參月五日届出同日受附⑩

第二號(戸七五)

男

玉 村 時 藏

推定 明治參拾貳年五月生

發見ノ時 明治參拾貳年五月六日午前五時貳拾分

發見ノ場所 芝區日蔭町一丁目六番地道路芝區明舟町六番地

明治參拾貳年五月七日引受

育 兒

五十五

院

◎戶籍法取扱手續

芝區日蔭町一丁目六番地戸主平民青物商

五十六

發見者

屋

井

五

郎

明治元年六月五日生

右棄兒發見明治參拾貳年五月七日届出同日受附⑩

附錄第一號ノ二十二

明治何年

非本籍人

身分

登記簿

死亡之部

東京市牛込區戶籍役場

紙數表紙ヲ除キ何枚

東京區裁判所監督判事氏名職印

第一號(戶三三二ノ一、三三二六ノ一)

本籍不明

男

伊

賀

去

就

推定 貳拾五六歳

死亡ノ時 明治參拾貳年六月六日午後拾時

死亡ノ場所 牛込區神樂阪道路

牛込警察署長警視

報告者

上

村

三

平

右死亡報告明治參拾貳年六月七日發送同日受附⑩

第一號欄外登記例

伊賀去就ノ本籍ハ麴町區三番町九番地ニ在リ明治五年參月拾日生ナル旨牛込警察署長上村

三平ヨリ明治參拾貳年六月九日報告發送同日受附⑩

備考

一 本籍地ヲ記載スルニハ其地名ノ上ニ本籍地ナル文字ヲ記セス寄留地若クハ所在地又ハ住所ヲ記載スルトキニ限リ其旨ヲ記ス

二 本籍地、寄留地若クハ所在地又ハ住所ヲ記載スルニ當リ其戶籍役場所在地ノ府縣名(區ヲ設ケアル市ニ於テハ市名)ハ之ヲ略ス

三 同一ノ登記番號内ニ登記ヲ爲スニ當リ既ニ他ノ資格ヲ以テ届出人ノ本籍地、族稱、職業及ヒ生年月日ヲ記載シタルトキハ届出人トシテ之ヲ記載スヘキ場合ニ前ニ記載シタ

◎戶籍法取扱手續

五十七

- 四 ル事項ヲ略ス
 父母ハ氏及ヒ族稱、本籍地ヲ同フスルヲ以テ常例トセルニ因リ之ヲ異ニスル場合ノ外
 母ニ付テハ之ヲ記載セス又母無職業ナルトキハ別段無職業ト記載セス
 戸主ト家族トノ間ニ在リテハ戸主ヲ家族ノ肩書トスルトキニ限リ戸主ノ氏ヲ略シ戸
 主ト家族トヲ書キ下ストキハ家族ノ氏ヲ略ス又族稱、職業、本籍地ヲ記載スルノ必要ア
 ル場合ニハ家族ニ付テハ其同一事項ニ限リ之ヲ略ス
 父母戸主ノ家ニ本籍ヲ有スルトキハ其父母ニ付戸主ト同一事項ヲ略ス
 何レノ場合ト雖モ省略ノ爲メ錯雜ヲ招クノ虞アルトキハ同一事項ヲモ記載ス
 登記番號ノ下ニ例ヘハ(戸六八、六九ノ三、民七三三ノ二)トアルハ戸籍法第六十八條第
 六十九條第三項民法第七百二十五條第三項ヲ略セルモノニシテ登記例毎ニ參考ノ爲メ
 關係ノ正條ヲ示シタルニ過キス
 六 欄外登記取消ノ登記ヲ爲シタルトキハ原登記ニ朱線ヲ交叉スルモノトス

附録第二號

戸籍簿

何市何町村戸籍役場

横五寸表

本籍地 狗町區元園町盛町目參番地 朱		前戸主 飯田正義	
明治六拾年八月拾日華族ニ列セラルル同月拾七日届出同日受附 明治六拾年拾月六日本籍地變更届出同日受附		族稱 朱 士族華族	
明治五拾八年六月廿日午後八時死亡同月貳日届出同日受附		前戸主 亡飯田正義長男	
		父 亡飯田正義	
		母 カ	
		父 飯田正夫	
		母 カ	
		父 川下幾太郎	
		母 ナ	
		三女	
		出生 明治九年六月四日	

戸籍法取扱手帳

明治五拾八年五月七日約町區四番町五番地副島吉藏二女婿届出同日受附入籍										
明治七拾五年七月六日推定家督相繼人廢除ノ裁判推定同月八日届出同日受附										
明治七拾貳年六月四日約町區永田町四丁目五番地澤田兵三ハ養子縁組届出同日受附除籍明治七拾貳年六月四日戸主ノ同意ヲ得スシテ養子ト爲リタルニ因リ同月拾五日復籍拒絕届出同日受附										
妻			男			女			長	長
父	母	出生	父	母	出生	父	母	出生	家族ノ續柄	家族ノ續柄
副島吉藏	トク	明治參拾六年七月四日	飯田正夫	トク	明治六拾八年八月九日	飯田正夫	トク	ハナ	トク	トク
二女			長男			二男				

明治六拾八年貳月四日出生届出同日神田區戸籍吏甲野乙郎受附同日届書發送同月七日受附										
明治六拾八年拾月壹日約町區平河町壹丁目四番地井戸龜次郎養子協議離縁届出同日受附入籍明治七拾年拾月拾五日芝區巴町參番地ハ分家届出同日芝區戸籍吏丙野丙郎受附同日届書及入籍通知書發送同月拾九日受附除籍										
明治九拾參年七月五日神田區錦町壹丁目四番地雲井時直二女婿届出同日受附入籍										
妻			弟			男			二	婦
父	母	出生	父	母	出生	父	母	出生	家族ノ續柄	家族ノ續柄
副島吉藏	トク	明治參拾六年七月四日	飯田正義	トク	明治六拾八年貳月參日	飯田正夫	トク	明治七拾貳年五月六日	トク	トク
二女			二男			二男				

◎戸籍法取扱手續

嫡出子タル身分取得

八 明治參拾壹年七月參日父甲母乙婚姻ニ因リ嫡出子タル身分取得届出同日受附[㊦]

私生子認知

九 明治參拾壹年七月壹日子丑縣寅卯郡辰巳村五番地甲野甲私生子認知届出同日受附入籍[㊦]

印

十 明治參拾壹年七月壹日父辰市午未町參番地丙野丙藏認知届出同日辰市午未町戸籍吏戊野戊一郎受附同日届書及ヒ入籍通知書發送同月九日受附除籍[㊦]

備考 第九記載例ハ他家ノ戸主ノ私生子ヲ認知シテ之ヲ入籍セシメタルノ例ヲ示シ

第十記載例ハ他家ノ戸主カ私生子ヲ認知シタル旨ヲ其戸主ノ本籍地ニ届出テ其戸籍吏ヨリ私生子ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届書及ヒ入籍通知書ヲ發送シ其戸籍吏之ヲ受附ケタルニ因リ私生子ヲ除籍シタルノ例ヲ示ス

養子縁組

十一 明治參拾壹年六月四日子丑村四番地丁野丁郎二女養子縁組届出同日受附入籍[㊦]

十二 明治參拾壹年六月四日子丑村七番地戊野戊五郎ハ養子縁組届出同日受附除籍[㊦]

十三 明治參拾壹年六月五日寅卯縣辰巳郡午未村六番地乙野乙郎甥養子縁組届出同日子丑市戸籍吏丙野丙郎受附同月六日届書發送同月八日受附入籍[㊦]

十四 明治參拾壹年六月五日午未區申酉町七番地甲野甲郎ハ養子縁組届出同日子丑市戸籍吏丙野丙郎受附同月六日届書發送同月九日受附除籍[㊦]

十五 明治參拾壹年六月六日子丑府寅卯郡辰巳村九番地乙野乙郎弟養子縁組届出同日辰巳村戸籍吏丙野丙郎受附同月八日届書發送同月拾日受附入籍[㊦]

十六 明治參拾壹年六月六日夫乙四郎ト共ニ養子縁組入籍[㊦]

十七 明治參拾壹年六月六日辰巳縣午未郡申酉村拾番地甲野甲郎ハ養子縁組届出同月七日受附除籍[㊦]

養子縁組ノ無效、取消

十八 明治參拾壹年六月拾參日縁組無効ニ因リ登記取消申請同日受附[㊦]

十九 明治參拾壹年六月拾四日縁組無効ニ因リ登記取消申請同日辰巳市戸籍吏丙野丙郎受附同日申請書發送六月拾九日受附[㊦]

二十 明治參拾壹年六月拾四日縁組取消ノ裁判確定同月貳拾九日登記取消申請同日受附[㊦]

二十一 明治參拾壹年六月拾四日縁組取消ノ裁判確定同月貳拾九日登記取消申請同日子丑縣寅卯郡辰巳町戸籍吏丙野丙郎受附同日申請書發送七月貳日受附[㊦]

離縁

二十二 明治參拾壹年八月參日協議離縁實家復籍届出同日受附除籍[㊦]

二十三 明治參拾壹年八月參日子丑村九番地甲野甲郎養子協議離縁届出同日受附入籍[㊦]

二十四 明治參拾壹年八月四日夫乙四郎ト共ニ協議離縁實家復籍除籍[㊦]

二十五 明治參拾壹年八月四日子丑縣寅卯郡辰巳村二番地乙野乙郎養子協議離縁届出同日辰巳村戸籍吏丙野丙郎受附同月六日届書發送同月六日受附入籍[㊦]

- 二十六 明治參拾壹年八月四日夫乙四郎下共二協議離縁入籍
- 二十七 明治參拾壹年八月七日離縁ノ裁判確定同月拾日實家復籍届出同日受附除籍
- 二十八 明治參拾壹年八月七日子丑縣寅卯郡子丑町一番地甲野甲郎養子離縁裁判確定同月拾日届出同日子丑町戸籍吏丙野丙郎受附同日届書發送八月拾日受附入籍
- 二十九 明治參拾壹年八月拾日離縁ノ裁判確定同月拾四日離縁及ヒ實家廢絶ノ旨届出同日受附除籍
- 三十 明治參拾壹年七月參日子丑縣寅卯郡辰巳村四番地乙野乙郎姉婚姻届出同日受附入籍
- 三十一 明治參拾壹年七月參日辰巳市午未町五番地甲野甲郎長男甲太卜婚姻届出同日辰巳市戸籍吏丙野丙郎受附同日五日届書及入籍通知書發送同月七日受附除籍
- 三十二 明治參拾壹年七月拾壹日寅卯縣辰巳郡午未村六番地乙野乙郎二女婚姻届出同日子丑市戸籍吏丙野丙郎受附同日届書發送同月拾五日受附入籍
- 三十三 明治參拾壹年七月拾壹日午未縣子丑郡申酉村七番地甲野甲郎二男甲太卜婚姻届出同日子丑市戸籍吏丙野丙郎受附同日發送届書同月拾七日受附除籍
- 三十四 明治參拾壹年八月九日婚姻取消裁判確定同月貳拾日甲裁判所檢事乙野乙郎登記取消請求書發送同月貳拾五日受附

他ノ養子縁組ノ無效取消ノ記載例準用

離婚

養子離縁ノ記載例準用

後見

三十五 明治參拾壹年七月拾日後見人子丑縣寅卯郡辰巳村百番地甲野乙郎就職届出同日受附

附

隠居

三十六 明治參拾壹年八月壹日隠居届出同日受附

三十七 明治參拾壹年八月四日隠居取消裁判確定同月拾參日登記取消申請同日受附

三十八 明治參拾壹年八月五日隠居取消裁判確定同月拾日乙裁判所檢事丙田丙郎登記取消請求書發送同月貳拾參日受附

請求書發送同月貳拾參日受附

失踪

三十九 明治參拾壹年八月拾日失踪宣告確定同月拾八日届出同日受附

四十 明治參拾壹年九月壹日失踪宣告取消ノ裁判確定同月拾參日登記取消申請同日受附

死亡

四十一 明治參拾壹年八月參拾日午後八時死亡九月貳日届出同日受附

四十二 明治參拾壹年九月八日午後拾壹時辰巳市午未町四番地ニ於テ死亡同月拾日届出同日午未町戸籍吏丙野丙郎受附同日届書發送同月拾四日受附

四十三 明治參拾壹年九月拾日午前拾時辰巳監獄署ニ於テ死亡同月拾壹日辰巳監獄署長典
獄丁野丁郎報告書發送同月拾四日受附㊟

家督相續

四十四 明治參拾壹年拾月壹日家督相續届出同日受附㊟

四十五 明治參拾壹年拾月拾貳日家督相續回復ノ裁判確定同月拾八日届出登記取消申請同
日受附㊟

日受附㊟

四十六 明治參拾壹年拾月拾日前戸主甲郎死亡家督相續人胎兒ナル旨同月貳拾日届出同日
受附㊟

受附㊟

四十七 明治參拾壹年拾貳月拾六日家督相續人タル胎兒死體ニテ分娩同月廿六日登記取消
申請同日受附㊟

申請同日受附㊟

家督相續人廢除

四十八 明治參拾壹年七月壹日推定家督相續人廢除ノ裁判確定同月五日届出同日受附㊟

四十九 明治參拾壹年八月拾壹日廢除取消ノ裁判確定同月貳拾八日登記取消申請同日受附
㊟

㊟

入籍

五十 明治參拾壹年拾月四日子丑縣寅卯郡辰巳町五番地甲野甲郎甥入家届出同日受附入籍
㊟

㊟

五十一 明治參拾壹年拾月四日辰巳市午未町一番地乙野乙郎方入家届出同日辰巳市戸籍吏

丙野丙郎受附同月五日届書及ヒ入籍通知書發送同月九日受附除籍㊟

離籍

五十二 明治參拾壹年九月拾日離籍届出同日受附除籍㊟

五十三 明治參拾壹年九月拾日夫甲郎離籍セラレ共ニ家ヲ去リタルニ因リ除籍㊟

五十四 明治參拾壹年拾月九日子丑市寅卯町一番地甲野甲郎ヨリ離籍セラレタルニ因リ一
家創立届出同日受附㊟

家創立届出同日受附㊟

五十五 明治參拾壹年拾月九日夫甲助一家ヲ創立シタルニ因リ入籍㊟

復籍拒絕

五十六 明治參拾壹年拾壹月拾參日戸主ノ同意ヲ得シテ婚姻ヲ爲シタルニ因リ同月拾五
日復籍拒絕届出同日受附㊟

日復籍拒絕届出同日受附㊟

五十七 明治參拾壹年拾貳月拾七日子丑市寅卯町一番地甲野甲郎ヨリ復籍ヲ拒絕セラレタ
ルニ因リ同月拾九日一家創立届出同日受附㊟

ルニ因リ同月拾九日一家創立届出同日受附㊟

五十八 明治參拾壹年拾貳月拾七日夫甲助一家ヲ創立シタルニ因リ入籍㊟

廢家、絶家

五十九 明治參拾壹年八月拾日廢家届出同日受附㊟

六十 明治參拾壹年八月拾六日甲區裁判所ノ許可ヲ得テ絶家トス㊟

六十一 明治參拾壹年拾月九日戸主死亡其家絶家ト爲リタルニ因リ同月拾參日一家創立届
出同日受附㊟

出同日受附㊟

分家

七十

- 六十二 子丑村四番地甲野甲郎方ヨリ分家明治參拾壹年拾月拾日届出同日受附㊦
- 六十三 明治參拾壹年拾月拾日父甲平分家シタルニ因リ入籍㊦
- 六十四 明治參拾壹年拾月拾日子丑村百十番地へ分家届出同日受附除籍㊦
- 六十五 明治參拾壹年拾月拾日子丑市寅卯町七番地へ分家届出同日寅卯町戸籍吏丙野内郎受附同日届書及入籍通知書發送同月拾五日受附除籍㊦

廢絶家再興

- 六十六 子丑縣寅卯郡辰巳村八番地甲野甲郎叔父明治參拾壹年拾壹月拾壹日廢家乙村氏再興届出同日受附㊦

- 六十七 明治參拾壹年拾壹月拾壹日辰巳縣午未郡申酉村二十九番地ニ於テ絶家乙村氏再興届出同日申酉村戸籍吏丙野丙郎受附同日届書及入籍通知書發送同月拾五日受附除籍㊦

國籍得喪

- 六十八 明治參拾壹年拾月拾貳日イ國ロ府ハ街アンリー、ベルナールト婚姻ヲ爲シタルニ因リ國籍喪失同月拾參日届出同日受附除籍㊦
- 六十九 明治參拾壹年拾月貳拾日甲區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失者トス除籍㊦

備考 第六十八記載例ハ國籍喪失後ニ届出ヲ爲シタルノ例ヲ示ス

氏名族稱ノ變更

- 七十 明治參拾壹年七月拾六日氏ノ復舊同月拾七日届出同日受附㊦

- 七十一 明治參拾壹年八月壹日改名同月五日届出同日受附㊦

- 七十二 明治參拾壹年八月拾五日華族ニ列セラル同月 拾七日届出同日受附㊦

- 七十三 明治參拾壹年八月貳拾日士族ノ稱返上同月貳拾參日届出同日受附㊦

- 七十四 明治參拾壹年八月貳拾八日處刑ニ因リ族稱ヲ失フ同日戌亥地方裁判所報告九月參日受附㊦

日受附㊦

登記ノ變更

- 七十五 明治參拾壹年九月六日ノ裁判ニ依リ同月貳拾日出生ノ時ニ關スル登記變更申請同日受附㊦

日受附㊦

- 七十六 明治參拾壹年拾壹月貳拾參日ノ裁判ニ依リ同月參拾日甲一ト戸主トノ續柄ニ關スル登記變更申請同日受附㊦

轉籍

- 七十七 明治參拾壹年七月貳拾日子丑縣寅卯郡辰巳町五番地ヨリ轉籍届出同日受附入籍㊦
- 七十八 明治參拾壹年七月貳拾日午未市申酉町七番地へ轉籍届出同日申酉町戸籍吏丙野丙郎受附同月貳拾壹日届書及入籍通知書發送同月貳拾五日受附除籍㊦

- 七十九 明治參拾壹年七月貳拾日本籍地變更届出同日受附㊦

就籍、除籍

- 八十 明治參拾壹年八月壹日就籍ノ裁判確定同月五日届出同日受附就籍㊦
- 八十一 明治參拾壹年九月五日除籍ノ裁判確定同月七日届出同日受附除籍㊦

七十一

附錄第四號

請求書

明治何年本籍人身分登記簿

何々之部紙數何枚

明治何年非本籍人身分登記簿

何々之部紙數何枚

右契印請求候也

明治 年 月 日

正副二冊

正副二冊

何市町村戶籍吏氏名職印

何區裁判所(監督)判事氏名殿

附錄第五號

右謄(抄)本ハ身分登記(戶籍)ノ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

明治 年 月 日

何府何郡何市區町村戶籍吏氏名職印

附錄第六號

一何々届

何通

右明治何年何月何日受理シタルコトヲ證明ス

明治 年 月 日

何市町村戶籍吏氏名職印

届出人氏名宛

附錄第七號

催告狀

本籍地又ハ住所、居所

届出又ハ申請義務者

氏

名

右氏名ハ本職ニ對シ來ル何月何日迄ニ何々ノ届出又ハ申請ヲ爲スヘキコトヲ催告ス

明治 年 月 日

何市町村戶籍吏氏名職印

附錄第八號

第二催告狀

本籍地又ハ住所、居所

届出又ハ申請義務者

氏

名

右氏名ハ何年何月何日本職カ發シタル何々届出又ハ申請ヲ爲スヘキ催告ニ應セサルヲ以テ更ニ來ル何月何日迄ニ右届出ヲ爲スヘキコトヲ催告ス

明治 年 月 日

何市町村戸籍吏氏名職印

戸籍法取扱手續

戸籍法附屬法令

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治六年第百參號布告改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律第二十一號

明治六年第百三號布告左ノ通改正ス

第一條 日本人カ外國人ヲ養子又ハ八夫ト爲スニハ内務大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
第二條 内務大臣ハ外國人カ左ノ條件ヲ具備スルニ非サルハ前條ノ許可ヲ與フルコトヲ得ズ

- 一 引續キ一年以上日本ニ住所又ハ居所ヲ有スルコト
- 二 品行端正ナルコト

○法律第二十一號參照 明治六年三月十四日第百三號布告ハ外國人民ト婚姻ヲ許スノ條規ナリ

司法省令第三號

地方裁判所 區裁判所

戸籍法實施ノ上ハ北海道廳、府縣、郡役所等ニ保管セル戸籍ニ關スル諸届級ハ管轄區裁判所其引繼ヲ受ケ戸籍簿ノ副本ハ管轄地方裁判所其引繼ヲ受クヘシ

司法省令第十二號

東京市、京都市及ヒ大阪市ノ各區ニ於テハ區長ヲ以テ戸籍吏トス

司法省令第十三號

第一條 身分登記簿又ハ戸籍簿ノ閱覽ヲ請求スル者ハ一枚ニ付金拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ請求スル者ハ一枚ニ付金拾錢ヲ納ムヘシ其一枚ニ滿タルモノト雖モ亦同シ但枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 身分又ハ戸籍ニ關スル届出若クハ申請ノ受理ノ證明書ヲ請求スル者ハ一件ニ付キ金五錢ヲ納ムヘシ

第四條 手数料カ國庫ノ收入ト爲ルヘキ場合ニ於テハ前三條ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル手数料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル人事訴訟手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

御名御璽

明治三十一年六月十五日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
司法大臣 曾禰荒助

法律第十三號

人事訴訟手續法

- 第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續
 - 第二章 親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續
 - 第三章 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續
 - 第四章 失踪ニ關スル手續
- 附則

人事訴訟法手續法

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

第一條 婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其ノ死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ收屬ス但縁組事件ニ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス
前項ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル
最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所地トス

第二條 夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無效又ハ取消ノ訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス

第三者カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦ヲ以テ相手方トシ夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

前二項ノ規定ニ依リテ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス
檢事カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ本案ノ訴訟手續受繼ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ承繼人トシテ選定スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ辯護士ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムルコトヲ要ス

◎人事訴訟法手續法

以テ之ヲ定ムヘシ

第三條 無能力者カ婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ同居ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

無能力者カ前項ノ訴訟行爲ヲ爲サントスルトキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ辯護士 訴訟代理人ニ選任スルコトヲ要ス

無能力者カ前項ノ申立ヲ爲ササルトキト雖モ受訴裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スヘキ旨ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ其選任ヲ爲スコトヲ得

前條第五項ノ規定ハ受訴裁判所ノ裁判長カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 夫婦ノ一方カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

禁治産者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ後見監督人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第五條 婚姻事件ニ付テハ檢事ハ辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ要ス

檢事ハ受命判事又ハ受託判事ノ審問ニ立會テ意見ヲ述フルコトヲ得
事件及期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調査ニ記載スヘシ

第六條 檢事ハ當事者ト爲ラサルトキト雖モ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出

スルコトヲ得

第七條 婚姻ノ無効ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得

他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得ス但扶養ノ請求、訴ノ原因タル事實ニ因リテ生シル損害賠償ノ請求及ヒ民法ノ規定ニ依リ婚姻事件ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ハ此限ニ在ラス

第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條 婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ノ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第十條 民事訴訟法第百十一條第二項第三項及ヒ第三百三十五條乃至第三百四十一條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百二十九條中請求ノ認諾ニ關スル規定亦同シ
裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

民事訴訟法第二百十條ノ規定ハ婚姻事件ノ控訴審ニ之ヲ適用セス

第十一條 婚姻事件ノ被害カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ更ニ其
◎人事訴訟法手續法

期日ヲ定ムルコトヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス
前項ノ場合ヲ除ク外被告カ期日ニ出頭セサルトキト雖モ辯論ヲ命シ且判決ヲ爲スコトヲ
得此場合ニ於テハ民事訴訟法第二百四十八條及ヒ第四百二十九條ノ規定ヲ適用セス
前二項ノ規定ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用ス

第十二條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身出頭ヲ命シ當事者又ハ檢事カ提出シタル
事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得

當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲ
シテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十三條 和諧ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限り一年ヲ越エサル
期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事
實ヲ斟酌スルコトヲ得但其事實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第十五條 婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送
達スヘシ

第十六條 扶養若クハ同居ノ義務子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六
條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 檢事カ敗訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス

第十八條 婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第三者ニ對シテモ
其效力ヲ有ス

民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコトヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求シタル場合
ニ於テ其訴ヲ棄却シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其者カ訴訟ニ參加シタルト
キニ限り其效力ヲ有ス

第十九條 檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限り後四條ノ規定ヲ適用ス

第二十條 檢事カ訴ヲ提起スルトキハ夫婦ヲ以テ相手方トス

第二十一條 訴ノ變更若クハ併合又ハ反訴ノ提起ハ檢事カ提起スルコトヲ得ル訴ナルトキ
ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

訴ノ事由ノ變更又ハ併合ハ檢事カ提出スルコトヲ得ル事由ナルトキニ限り之ヲ爲スコト
ヲ得

第二十二條 檢事ハ他ノ者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ追行シ
又ハ上訴ヲ爲スコトヲ得但夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ此限ニ在ラス

第二十三條 檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トス

當事者ノ一人カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ他ノ當事者及ヒ當事者タリシ檢事ヲ以テ相手方
トス

第二十四條 養子縁組ノ無效若クハ取消又ハ離縁ヲ目的トスル訴ハ養親カ普通裁判籍ヲ有
スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但婚姻事件ニ附帶

◎人事訴訟法手續法

シテ縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス
第二十五條 養親カ禁治産者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス
養子カ禁治産者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 第一條第二項、第三項、第二條、第三條及ヒ第五條乃至第十八條ノ規定ハ養子縁組事件ニ之ヲ準用ス

第二章 親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續

第二十七條 子ノ否認、認知、其認知ノ無效若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十八條 夫カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セスシテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ死亡シタルトキハ其子ノ爲メニ相籍權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限り否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ否認ノ訴ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ第一項ニ掲ケタル者ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得

第三十條 父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子、母、母ノ配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ハ互ニ其相手方トナル
子又ハ母カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十一條 親權若クハ財産管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ現ニ親權若クハ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ相手方トス

第三十三條 推定家督相續人若クハ推定遺産相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十四條 廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺産相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス

第三十五條 隱居ノ無效又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隱居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十六條 隱居者カ提起スル隱居ノ無效又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方トス

◎人事訴訟法手續法

家督相續人カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隱居者ヲ以テ相手方トス
隱居者及ヒ家督相續人ニ非サル者カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ隱居者及ヒ家督相續人
ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十七條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付キ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其事實
及ヒ證據調ノ結果ニ付當事者ヲ訊問スヘシ

第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタル判決ハ職權ヲ
以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第三十九條 第一條第二項、第二項、第三條、第五條、第七條第二項、第十條乃至第十二條及
ヒ第十六條乃至第十八條ノ規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第七條第一項、第八條及ヒ第九條ノ規定ハ第二十一條、第二十三條及ヒ第二十五條ニ掲ケ
タル訴、子ノ認知ノ無効ノ訴及ヒ其取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ親權又ハ財産管理權ノ喪失ヲ目的トスル訴及ヒ隱居
ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條ノ
場合ニ之ヲ準用ス

第三章 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續

第四十條 禁治産ノ申立ハ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所

ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ之ヲ準用ス

第四十一條 妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第四十二條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申立ニハ其原因タル事實及ヒ證據方法ヲ表示スヘシ

第四十三條 裁判所ハ禁治産ノ手續ノ開始前診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 禁治産ノ手續ハ之ヲ公行セス

第四十五條 檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ其手續ヲ

追行シ且期日ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調書

ニ記載スヘシ

第四十六條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況
ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

民事訴訟法第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ハ證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第四十七條 裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ヲ訊問スヘシ但其訊

問ヲ爲シ難キトキ又ハ其者ノ健康ニ害アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲ス

◎人事訴訟法手續法

◎人事訴訟法手續法

コトヲ得ス

第四十九條 禁治産ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢察カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第五十條 裁判所ハ禁治産ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其宣告ヲ受クヘキ者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治産ノ宣告ヲ爲シタル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ

第五十一條 禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢察ニ送達スヘシ

禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢察及ヒ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送達スヘシ

第五十二條 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢察カ送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

第五十三條 裁判所ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ送達シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ

第五十四條 申立人及ヒ檢察ハ禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコ

トヲ得

第四十三條乃至第四十六條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用ス

第五十五條 民法ノ規定ニ依リテ禁治産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シテ一個月

内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ知りタル日ヨリ之ヲ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定カ效力ヲ生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第五十六條 前條第一項ノ訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第五十七條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治産ノ申立人ヲ以テ相手方トス

禁治産ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢察ヲ以テ相手方トシ檢察ガ提起スル前項ノ訴ニ於テハ禁治産者ノ法定代理人ヲ以テ相手方トス

第五十八條 第五十五條第一項ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合シ又ハ之ニ對シテ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條 第二條第四項、第五項、第三條、第五條、第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十條 裁判所カ第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治産者ヲ宣告シタル決定ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治産者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

◎人事訴訟法手續法

◎人事訴訟法手續法

十二

第六十一條 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ後見人カ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セス
禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ禁治産者カ爲シタル行爲ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キ
テ之ヲ取消スコトヲ得ス

第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ
前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ

第六十三條 禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ禁治産
者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第四十二條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告ノ取消アリタル場合ニ
於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ國庫ノ負擔トス

第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ
禁治産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第六
十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス

檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十六條 禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ
以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條乃至第六十條第六十一條第一項及ヒ第六十二條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用
ス

第六十七條 準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第四十三條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ浪費者ニ之ヲ適用セス

第三條第二項乃至第四項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ適用セス

第六十八條 準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依リ
テ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツコトヲ得此場合ニ於テハ準禁治産ノ取消ニ關ス
ル規定ヲ準用ス

第六十九條 本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム

第四章 失踪ニ關スル手續

第七十條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七
百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲ササルトキハ失
踪ノ宣告ヲ受クヘキコト
- 二 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト

◎人事訴訟法手續法

十三

公示催告期間ハ六個月以上ナルコトヲ要ス

第七十三條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告ノ日ヨリ二個月以上ナルヲ以テ足ル

第七十四條 檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ヘ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第四十二條第二項、第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス
第七十五條 各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ續行スルコトヲ得

第七十六條 不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止スヘシ

第七十七條 失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財産ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス

第七十八條 失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 數個ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民事

訴訟法第五十條ノ規定ヲ適用ス

第八十條 民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百七十五條ノ規定ヲ適用セス

附則

第八十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十二條 明治二十三年法律第四百四號其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第八十三條 本法施行前ニ提起シタル訴ニシテ其判決確定セサルモノニハ本法ノ規定ヲ適用ス

法律第十三號參照

明治二十三年十月九日官報 法律第四百四號ハ婚姻事件養子縁組事件及ヒ禁治産事件ニ關スル訴訟規則ナリ

◎人事訴訟法手續法

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル非訟事件手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

御名 御璽

明治三十一年六月十五日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文
司法大臣 曾禰荒助

法律第十四號

非訟事件手續法

第一編 總則

第二編 民事非訟事件

第一章 法人ニ關スル事件

第二章 財産ノ管理ニ關スル事件

第三章 裁判上ノ代位ニ關スル事件

第四章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第五章 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件

第六章 相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件
 第七章 遺言ノ確認及ヒ執行
 第八章 法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記
 第三編 商業非訟事件
 第一章 會社及ヒ競賣ニ關スル事件
 第二章 會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任
 第三章 商業登記
 第一節 通則
 第二節 商號ノ登記
 第三節 未成年者妻及ヒ後見人ノ登記
 第四節 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記
 第五節 合名會社及ヒ合資會社ノ登記
 第六節 株式會社ノ登記
 第七節 株式合資會社ノ登記
 第八節 外國會社ノ登記

附則

非訟事件手續法

第一編 總則

- 第一條 裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス
- 第二條 裁判所ノ土地ノ管轄カ住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス
 居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス
 最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ財產ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所カ管轄裁判所ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ
- 第三條 數個ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス
- 第四條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ掲ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス
- 民事訴訟法第二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス
- 第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタ
- ◎非訟事件手續法

ルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ辯護士ニ非スシテ代理ヲ營業トスル者ニ退斥ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七條 民事訴訟法第六十四條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ職權ヲ以テ私署證書ニ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條 申立及ヒ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第三百三十五條ノ規定ハ口頭ノ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第九條 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 申立人ノ氏名、住所
- 二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名、住所
- 三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實
- 四 年月日
- 五 裁判所ノ表示

證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添付スヘシ

第十條 期日、期間、説明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第十二條 事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行爲ハ之ヲ囑スルコトヲ得

第十三條 審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得

第十四條 證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限り之ヲ作ラシムヘシ

第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十六條 裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之ニ署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且正本ニハ裁判所ノ印ヲ押捺スヘシ

第十八條 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其効力ヲ生ス裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス

告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第十九條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サ

◎非訟事件手續法

レハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

第二十條 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ效力ヲ有セス

第二十二條 即時抗告ノ期間ハ裁判ノ告知ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民事訴訟法第七十四條乃至第七十六條ノ規定ハ即時抗告ノ期間ヲ懈怠レタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第二十四條 抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第四百二十五條、第四百三十六條及ヒ第四百五十三條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第二十五條 抗告ニハ前五條ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外

事件ノ申立人ノ負擔トス但檢察カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二十七條 裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 民事訴訟法第八十條第一項ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得民事訴訟法第八十二條第一項ノ規定ノ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三十一條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ

第三十三條 本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二編 民事非訟事件

○非訟事件手續法

第一章 法人ニ關スル事件

第三十四條 民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

法人ノ設立者カ日本ニ住所ヲ有セザリシトキ又ハ其住所カ知レサルハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十六條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條 第三百二十六條、第三百二十七條及ヒ第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス

第二章 財産ノ管理ニ關スル事件

第三十八條 不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ其住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十九條 裁判所ハ管理人ヲ選任シ又ハ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第四十條 裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル管理人ヲ改任スルコトヲ得此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ届出ツヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ

第四十一條 裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財産ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

民法第二十七條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十二條 利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢察ハ前項ノ書類ヲ閱覽スルコトヲ得

第四十三條 民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人ニ之ヲ準用ス

第四十四條 裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セシメタル後其増減、變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得

第四十五條 裁判所ハ管理人ノ不動産又ハ船舶ノ上ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ニハ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添附スシ

前二項ノ規定ハ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス

◎非訟事件手續

第四十六條 裁判所カ財産ノ封印ヲ命シタル場合ニ於テハ管轄區裁判所之ヲ爲ス
利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ封印ノ手續ニ立會フコトヲ得

第四十七條 左ニ掲ケタル物ニハ封印ヲ爲スヘカラス

一 日用品

二 封印ヲ爲スニ適セサル物

三 第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラズ

第四十八條 封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ

民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十九條 裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財産ノ保管者ヲ選任スヘシ

第四十條、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至六百六十一條及ヒ第六百六

十四條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ之

ヲ檢事ニ爲スコトヲ要ス

第五十條 封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直チニ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一 封印ヲ命シタル裁判ノ表示

二 封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由

三 申立人ノ氏名、住所

四 封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫

五 封印ヲ爲サザリシ物件ノ概略及ヒ其事由

調書ハ二通ヲ作リ其一通ハ之ヲ裁判所ニ保存シ其一通ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ
取置クヘシ

第五十一條 裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ民法第二百五條第二項及

ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得

第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ

準用ス

保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得

第五十二條 裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人、保管者、管

理人及ヒ檢事ニ之ヲ告知スヘシ

利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法

第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラズ

異議ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去

スルコトヲ得ス

封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘシ但民

法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人カ之ヲ調製セサルコトニ同

意シタルトキハ此限ニ在ラズ

◎非訟事件手續法

第五十四條 封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示
 - 二 封印ノ除去ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由
 - 三 申立人ノ氏名、住所
 - 四 異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下アリタルコト
 - 五 財産ノ目録ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメサリシコト
 - 六 封印ノ状況及ヒ異狀アルトキハ其事由
- 調書ハ裁判所ニ之ヲ保存スヘシ

第五十五條 管理人カ調製スヘキ財産ノ目録ニハ左ノ事項ヲ記載シ

- 一 調製ノ場所、年月日及ヒ其事由
 - 二 申立人ノ氏名、住所
 - 三 不動産ノ表示
 - 四 動産ノ種類及ヒ數量
 - 五 債權及ヒ債務ノ表示
 - 六 帳簿、證書其他ノ書類
- 財産ノ目録ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人之ヲ保管シ其一通ハ之ヲ裁判所ニ提出スヘシ

第四十六條第二項ノ規定ハ財産ノ目録ノ調製ニ之ヲ準用ス

第五十六條 民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財産ノ目録ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ調製シタル目録ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
前條ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目録ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 利害關係人ハ財産ノ目録ノ閲覧ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ財産ノ目録ヲ閲覧スルコトヲ得

第五十八條 裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘキ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ

第五十九條 本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト爲リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ本人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命シタル處分ヲ取消スヘシ

第六十條 利害關係人ハ不在者ノ財産ヲ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

◎非訟事件手續